

## 資料集

1	県総合計画の政策評価制度による評価	102
2	県政に関する世論調査 芸術や文化に親しむ機会について	103
3	県政に関する世論調査 県民の文化芸術活動について	104
4	文化芸術活動に関する調査 県域芸術文化団体へのアンケート -	110
5	文化芸術活動に関する調査 特定非営利活動法人へのアンケート -	119
6	県内市町村の文化振興条例・計画等の状況	130
7	文化芸術団体・文化振興関連の法人等	131
	(1) 千葉県芸術文化団体協議会	
	(2) 特定非営利活動法人	
	(3) 文化振興関連の法人等	
8	文化施設の状況	133
	(1) 文化会館	
	(2) 美術館・博物館	
	(3) 図書館	
	(4) 県立文化施設の利用者入館者数	
9	国・県指定文化財、ちば遺産 100 選・ちば文化的景観、県指定伝統的工芸品	136
	(1) 国・県指定文化財	
	(2) ちば遺産 100 選・ちば文化的景観	
	(3) 伝統的工芸品の指定状況	
	別表 1.ちば遺産 100 選	
	別表 2.ちば文化的景観	

# 1 県総合計画の政策評価制度による評価

県総合計画の政策評価制度による進行管理結果では、県立美術館休館により「千葉・県民芸術祭」参加人数や美術館・博物館入場者数に減少はあるもの、概ね横ばいで推移しています。

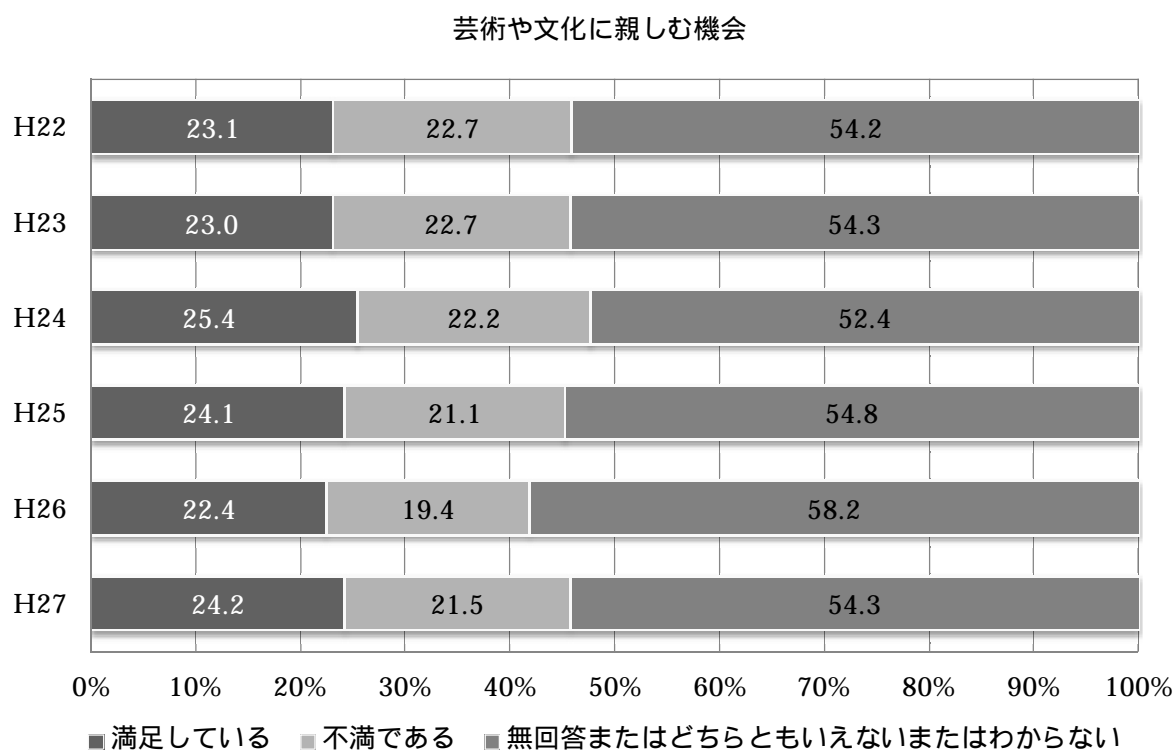
主な取組	新指標 番号	指標名	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度
1 文化芸術活動を支えるための仕組みづくり - 4 - - 1	補 12	「千葉・県民芸術祭」参加人数	70,347 人	74,357 人	72,761 人	42,705 人	39,402 人
	補 13	芸術文化団体加盟者数	127,915 人	113,100 人	116,280 人	117,269 人	115,517 人
	119	「千葉・県民芸術祭」実施事業数	28 事業	27 事業	29 事業	29 事業	28 事業
	120	文化芸術に関する情報交換・意見交換会の開催回数			3 回	5 回	4 回
	121	文化ボランティア登録件数	59 件	65 件	70 件	75 件	53 件
2 文化にふれ親しむ環境づくり - 4 - - 2	補 14	県立文化会館の入場者数	736,404 人	788,974 人	779,990 人	840,078 人	839,938 人
	補 15	美術館・博物館入場者数	970,702 人	1,108,833 人	1,069,164 人	892,704 人	909,805 人
	122	「学校における音楽鑑賞事業」「県民芸術劇場公演事業」の開催件数	92 件	92 件	92 件	91 件	92 件
	123	少年少女オーケストラ演奏会開催数	5 回	5 回	5 回	6 回	5 回
	124	学校・社会教育施設等における出土文化財活用事業件数	127 件	124 件	150 件	137 件	127 件
	125	千葉フィールドミュージアム事業における観察会等件数	76 件	78 件	67 件	80 件	81 件
3 文化資源を活用した地域の活性化 - 4 - - 3	補 16	「ちばの文化資源情報」の提供件数			3,483 件	3,486 件	3,694 件
	126	文化財探検隊の実施回数	3 回	3 回	3 回	3 回	2 回
	127	発掘調査の遺跡見学会実施件数				0 回	2 回
4 伝統文化の保存継承 - 4 - - 4	-	伝統芸能継承者育成事業の参加者数	497 人	1,010 人	280 人	273 人	118 人
	-	伝統芸能継承者育成事業の実施件数	6 件	11 件	6 件	7 件	4 件
	128	美術館・博物館における伝統文化体験事業の参加者数			1,370 人	1,811 人	1,888 人
	129	房総の郷土芸能の参加者数			819 人	782 人	939 人
5 千葉アイデンティティの醸成 - 4 - - 5	130	県民の日賛同行事の実施件数	314 件	311 件	310 件	327 件	337 件
	131	県民の日地域行事の実施件数		11 件	11 件	11 件	11 件
	補 40	「ちば文化交流ボックス」へのアクセス件数	219,827 件	64,141 件	160,287 件	194,348 件	380,407 件
	補 41	デジタルミュージアムへのアクセス件数			37,349 件	37,265 件	41,620 件
	補 42	ふさの国文化財ナビゲーションシステムへのアクセス件数			14,749 件	17,331 件	20,500 件
	242	県民へ提供した文化情報の件数			32 件	34 件	58 件

(千葉県・県総合計画進行管理結果より)

千葉県総合計画・平成 22 年度～平成 26 年度進行管理結果より

## 2 県政に関する世論調査 - 芸術や文化に親しむ機会について

県民の芸術や文化に親しむ機会についての満足度をたずねたところ、平成 27 年度の調査では「満足している」が 24.2%、「不満である」が 21.5%となっており、満足度・不満度とも、ほぼ横ばい傾向となっています。



(千葉県・県政に関する世論調査より)

千葉県・県政に関する世論調査：『平成 22 年度～平成 27 年度（第 40・42・44・46・48・50 回）県政に関する世論調査報告書』千葉県、平成 22～27 年 12 月。

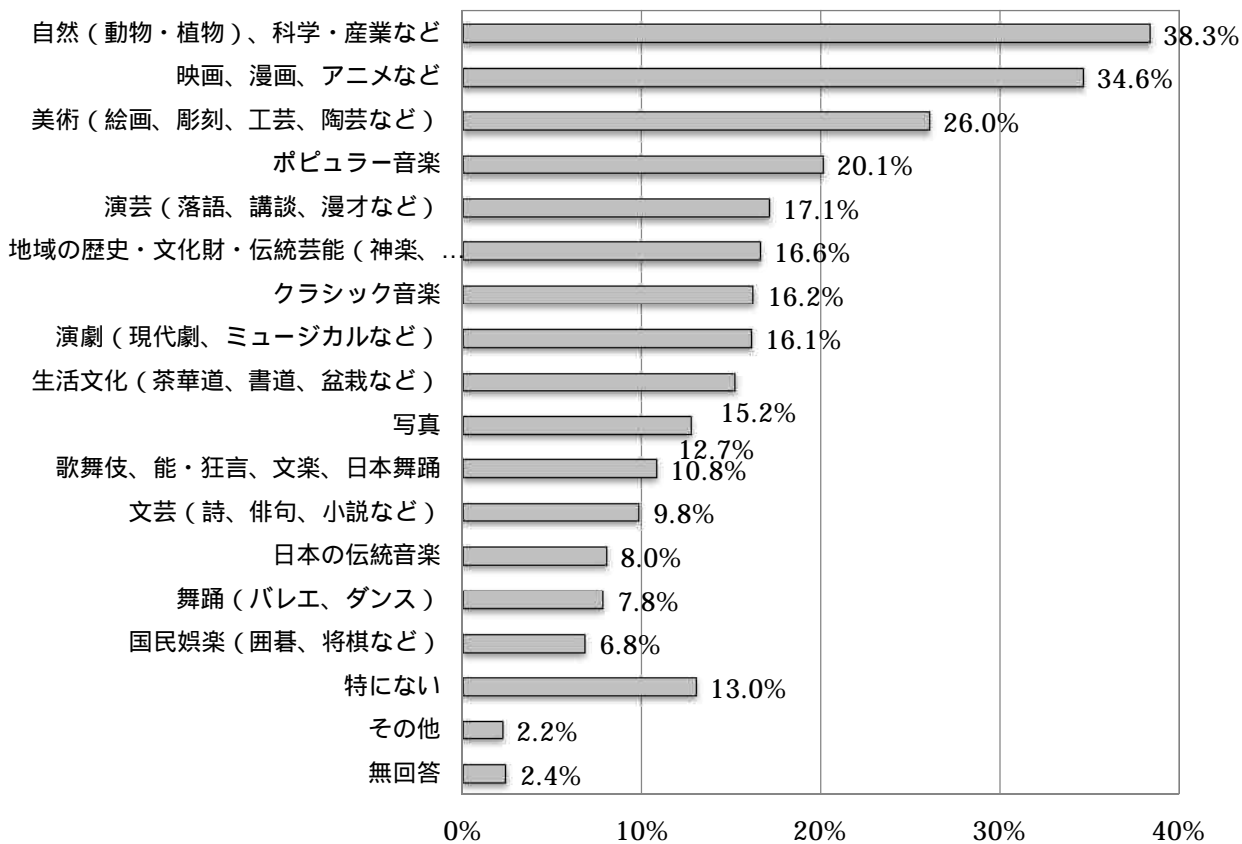
### 3 県政に関する世論調査 - 県民の文化芸術活動について

#### (1) 特に関心を持っている文化芸術

特に関心を持っている文化芸術として「自然（動物・植物）、科学・産業など」（38.3%）が約4割と最も多くあげられた。以下、「映画、漫画、アニメなど」（34.6%）、「美術（絵画、彫刻、工芸、陶芸など）」（26.0%）、「ポピュラー音楽」（20.1%）となっています。

「特にない」（13.0%）は全体の1割程度となっています。

特に関心を持っている文化芸術



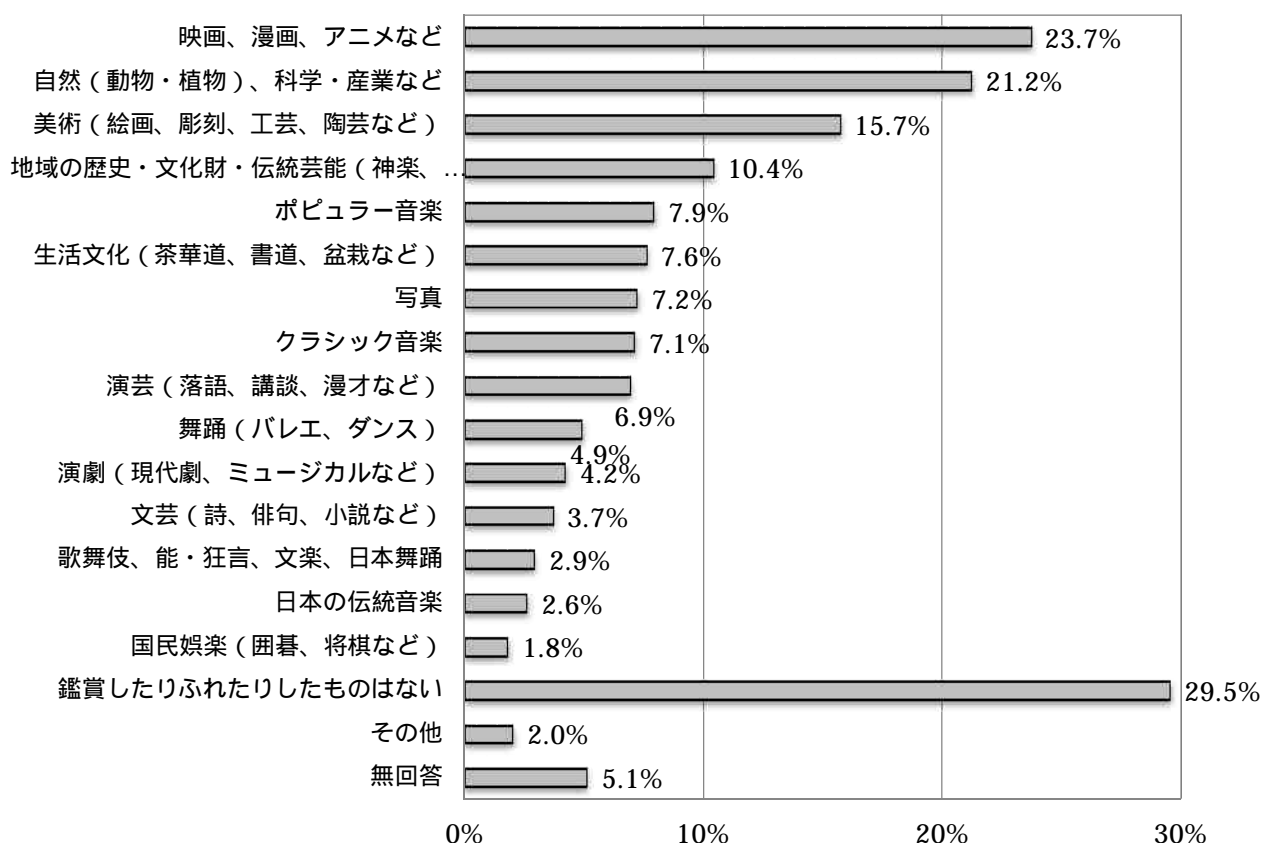
（千葉県・県政に関する世論調査より）

(2) この1年間に県内でふれた文化芸術

この1年間に県内でふれた文化芸術では、「映画、漫画、アニメなど」(23.7%)が2割台半ばで最も多く、以下、「自然(動物・植物)、科学・産業など」(21.2%)、「美術(絵画、彫刻、工芸、陶芸など)」(15.7%)が続いています。

一方、「鑑賞したりふれたりしたものはない」(29.5%)が全体の約3割となっています。

この1年間に県内でふれた文化芸術

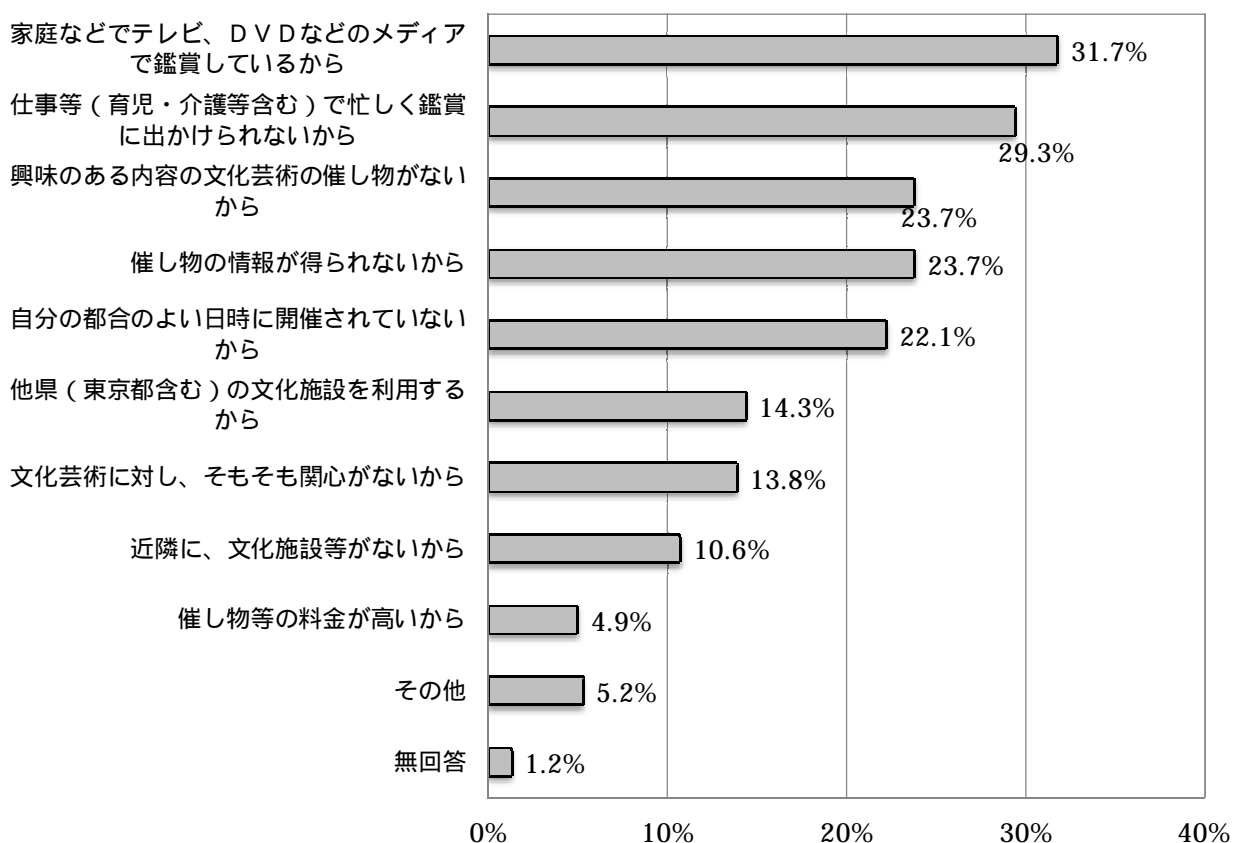


(千葉県・県政に関する世論調査より)

### (3) この1年間に県内の文化芸術にふれなかった理由

この1年間に県内で文化芸術を「鑑賞したりふれたりしたものはない」と回答した426人について、文化芸術にふれなかった理由を聞いたところ、「家庭などでテレビ、DVDなどのメディアで鑑賞しているから」が(31.7%)で3割を超えて最も多く、以下、「仕事等(育児・介護等含む)で忙しく鑑賞に出かけられないから」(29.3%)、「興味のある内容の文化芸術の催し物がないから」「催し物の情報が得られないから」(ともに23.7%)、「自分の都合のよい日時に開催されていないから」(22.1%)となっています。

この1年間に県内の文化芸術にふれなかった理由

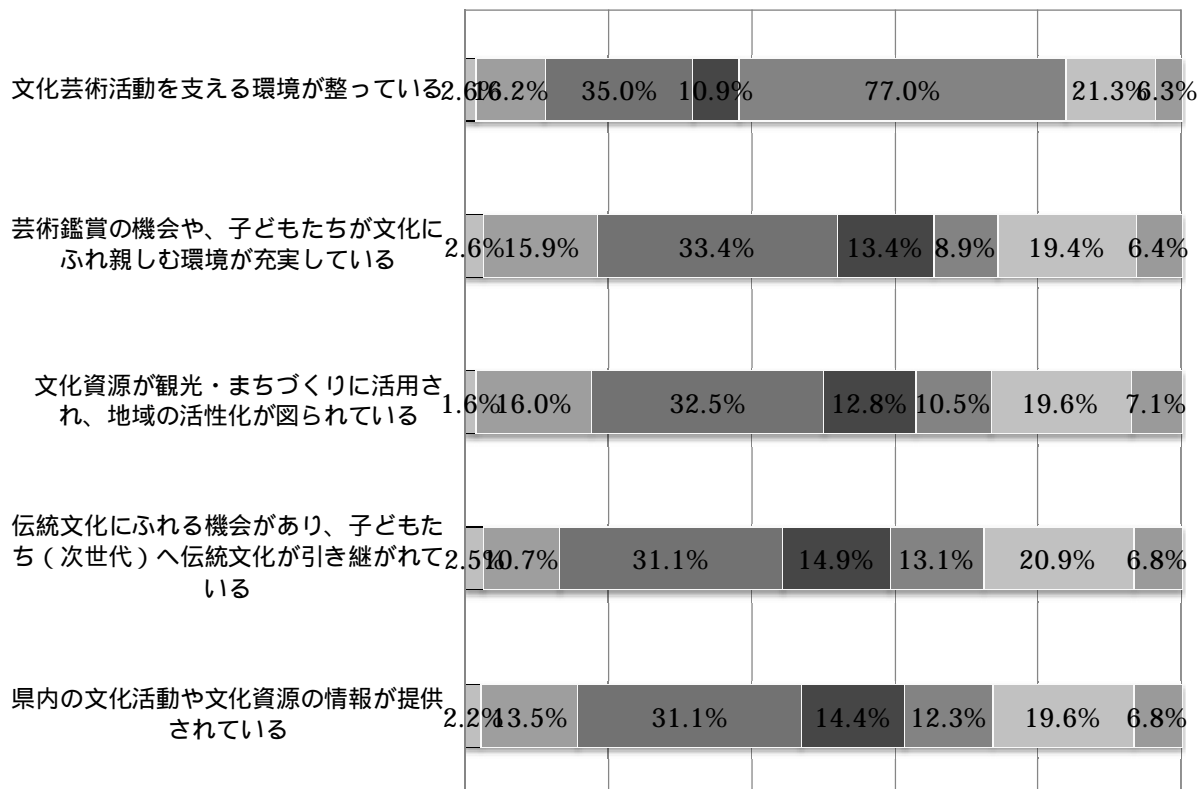


(千葉県・県政に関する世論調査より)

(4) 文化振興にあたっての県の取り組み評価

文化振興に関する県の取り組み評価では、いずれの項目も「どちらともいえない」が3割を超えて最も多くなっています。

文化振興にあたっての県の取り組み評価

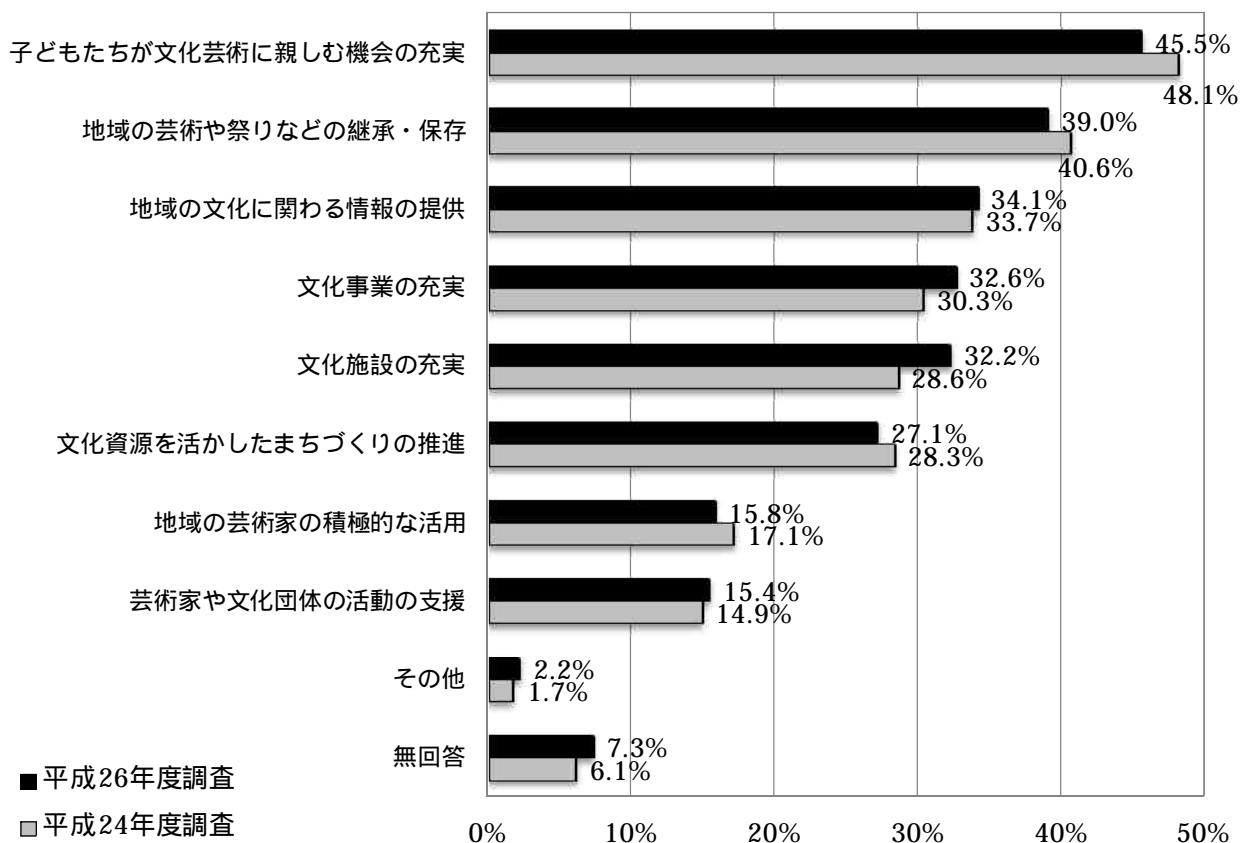


(千葉県・県政に関する世論調査より)

(5) 地域の文化的環境に必要なことについて

地域の文化的環境を満足できるものとするために必要なこととして、「子どもたちが文化芸術に親しむ機会の充実」(47.5%)が約5割と最も多くあげられ、以下、「地域の芸術や祭りなどの継承・保存」(39.0%)、「地域の文化に関わる情報の提供」(34.1%)、「公演、展覧会、芸術祭などの文化事業の充実」(32.6%)、「文化会館やホール、美術館・博物館などの文化施設の充実」(32.2%)となっています。

地域の文化的環境に必要なこと



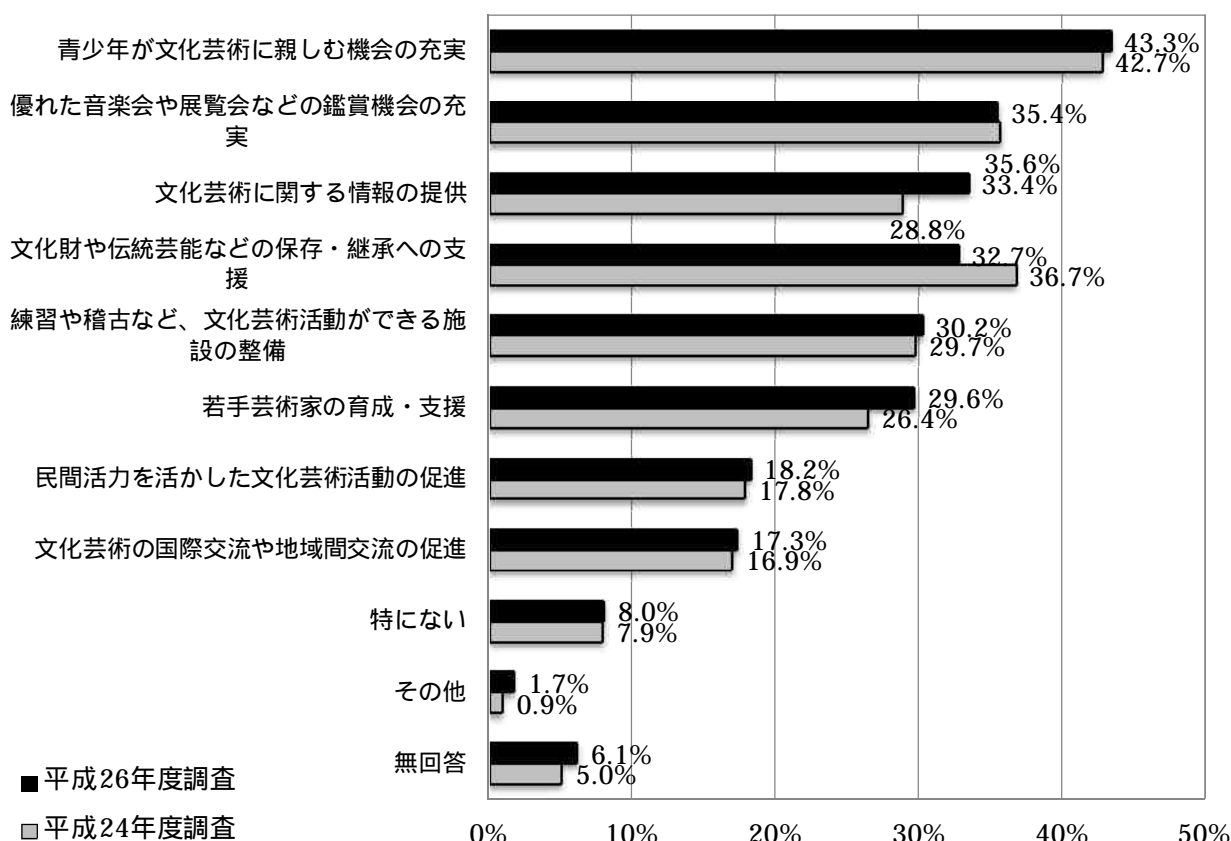
(千葉県・県政に関する世論調査より)



(6) 文化芸術を振興するために県が果たす役割

文化芸術を振興するために県が果たす役割として、「青少年が文化芸術に親しむ機会の充実」(43.3%)が4割台半ばと最も高く、以下、「優れた音楽会や展覧会などの鑑賞機会の充実」(35.4%)、「文化芸術に関する情報の提供」(33.4%)、「文化財や伝統芸能などの保存・継承への支援」(32.7%)となっています。

地域の文化的環境に必要なこと



(千葉県・県政に関する世論調査より)

## 1. 調査の目的

「ちば文化振興計画」(平成28～32年度)の基礎資料とするとともに、今後の文化振興施策や事業展開の参考資料とする。

## 2. 調査の実施状況等

- (1) 調査対象 県域芸術文化団体 23 団体
- (2) 調査時期 平成 27 年 8 月 24 日～9 月 30 日
- (3) 調査方法 アンケート調査票の配布・記入・回収による回答
- (4) 回答状況 県域芸術文化団体 22 団体が回答 (回答率 96.6%)
- (5) 調査項目

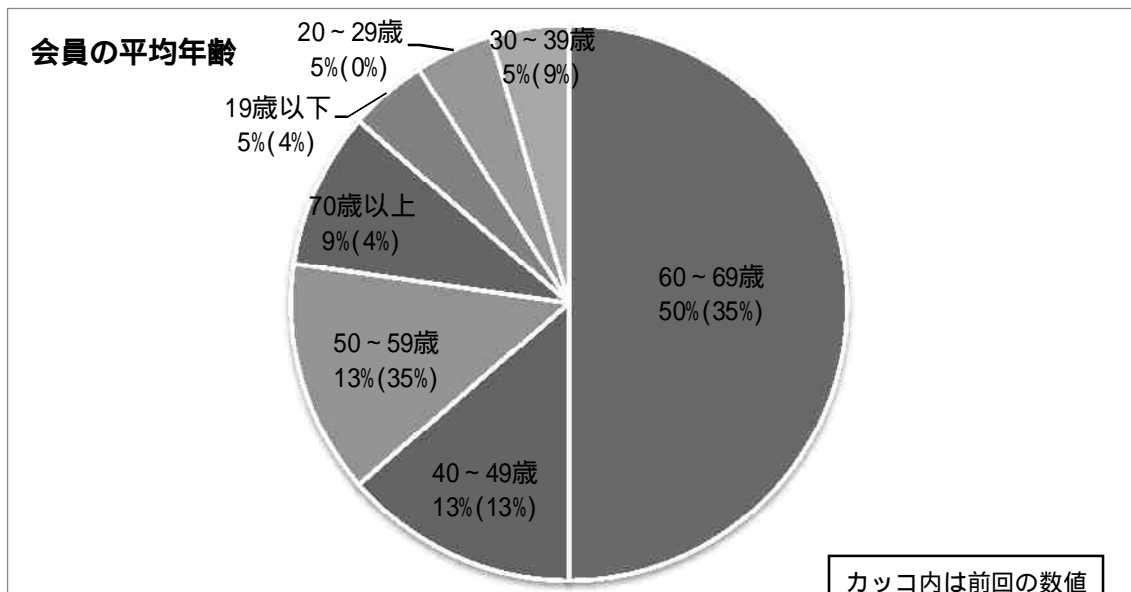
- 問 1. 団体の会員数について
- 問 2. 会員の平均年齢について
- 問 3. 成果発表会等の実施頻度について
- 問 3-2. 成果発表会等での会員外の受入れ体制について
- 問 3-3. 成果発表会等での会員外からの費用負担について
- 問 4. PR 活動の頻度について
- 問 4-2. 団体 PR の手段・方法について
- 問 5. 団体専用ホームページの有無について
- 問 6. 千葉県ホームページの利用について
- 問 7. 後継者育成を目的とした事業・活動について
- 問 8. 他ジャンルとの交流を目的とした事業・活動について
- 問 9. 事業・活動をする際の不便や不満感について
- 問 10. 団体としての課題や悩みごとについて
- 問 11. 文化振興に県が果たす役割について
- 問 12. 「ちば文化」のイメージについて
- 問 13. 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の文化イベントについて
- 問 14. 国及び県に期待することについて

## 3. 調査結果

問 1. 貴団体の現在の会員(加入者)数について、お答えください。正確にわからなければ「約何人」でもかまいません。(n:22)

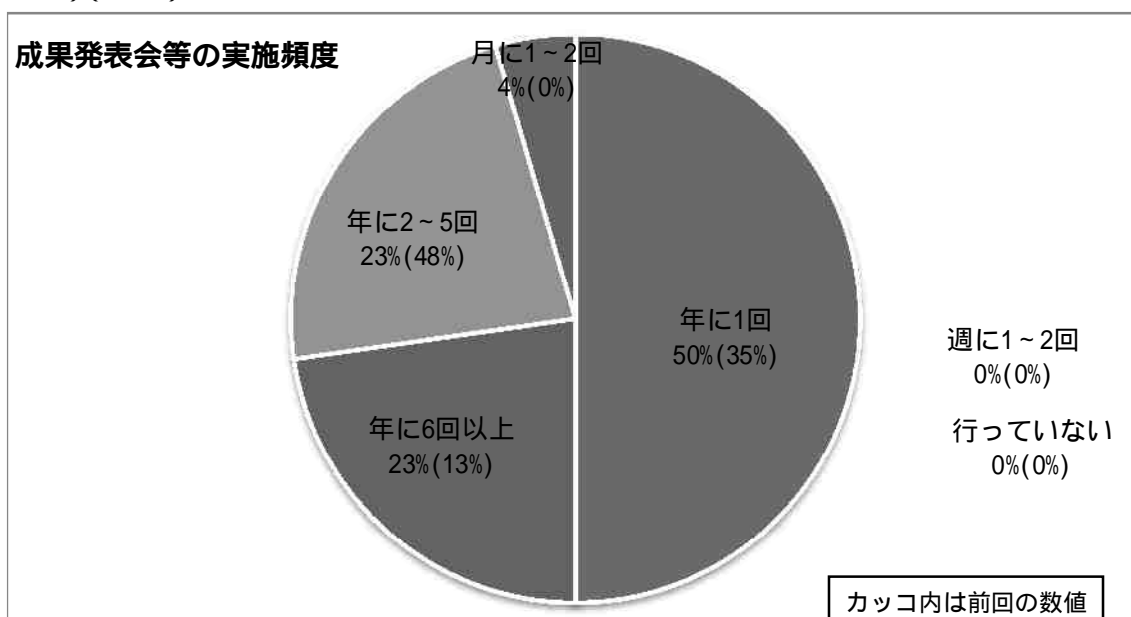
団体の会員数についてたずねたところ、最小が 35 名(前回 14 名)で、最大が 23,000 名(前回 25,000 名)となり、各団体によってバラつきがみられます。総計は 60,969 名(前回 40,697 名)で、平均すると 1 団体につき 2,771 名(前回 1,769 名)となります。

問2. 貴団体の現会員（加入者）の平均年齢について、お答えください。（1つ選択）(n:22)



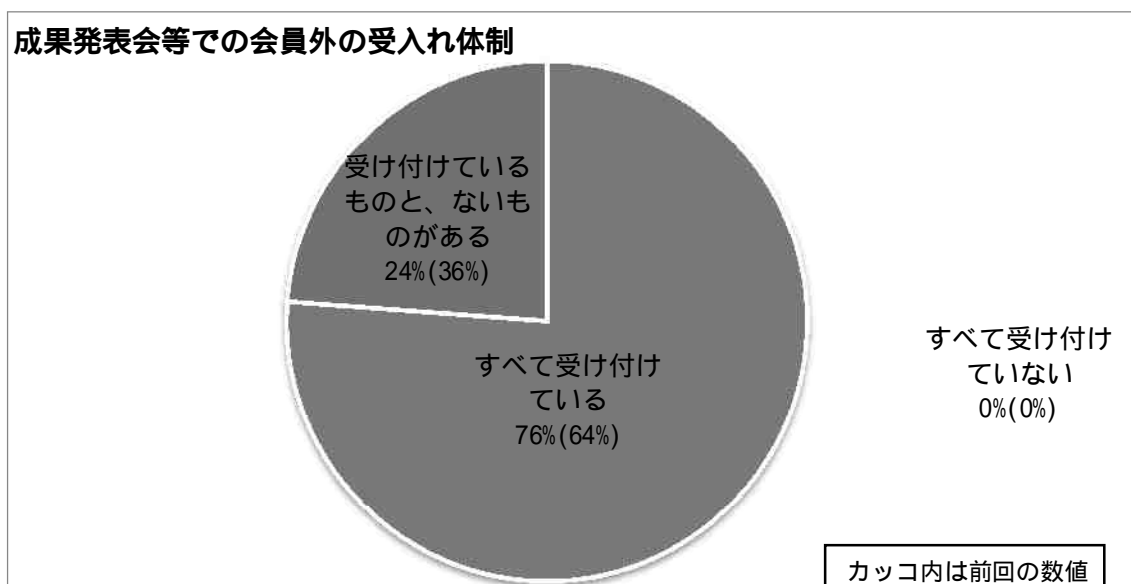
会員の平均年齢についてたずねたところ、「60～69歳」が50%でもっとも高く、次いで「40～49歳」「50～59歳」が13.7%、「70歳以上」が9.1%と続き、「19歳以下」「20～29歳」「30～39歳」が4.5%でした。

問3. 貴団体では、団体として行う成果の発表会や展示会等をどのくらい行っていますか。（1つ選択）(n:22)



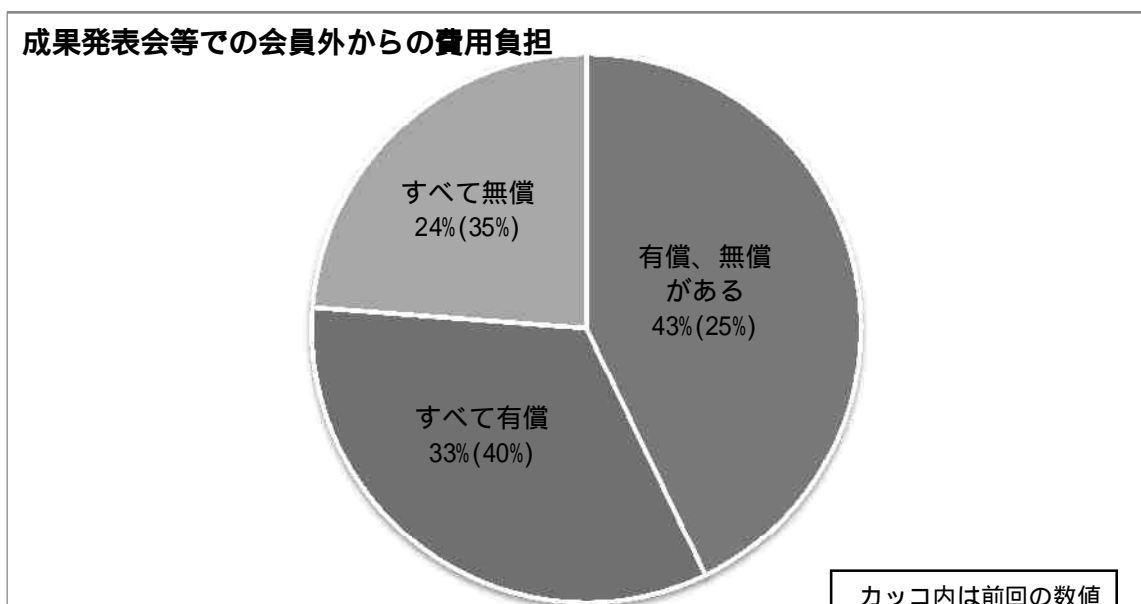
成果発表会等の実施頻度についてたずねたところ、「年に1回」が50%でもっとも高く、次いで、「年に2～5回」「年に6回以上」が23%、「月に1～2回」が4%と続き、「週に1～2回」「行っていない」が0%でした。

問3-2. 問3で行っているとした場合、それは一般の方（会員以外）の参加（観覧、聴講）も受け付けていますか。（1つ選択）(n:21)



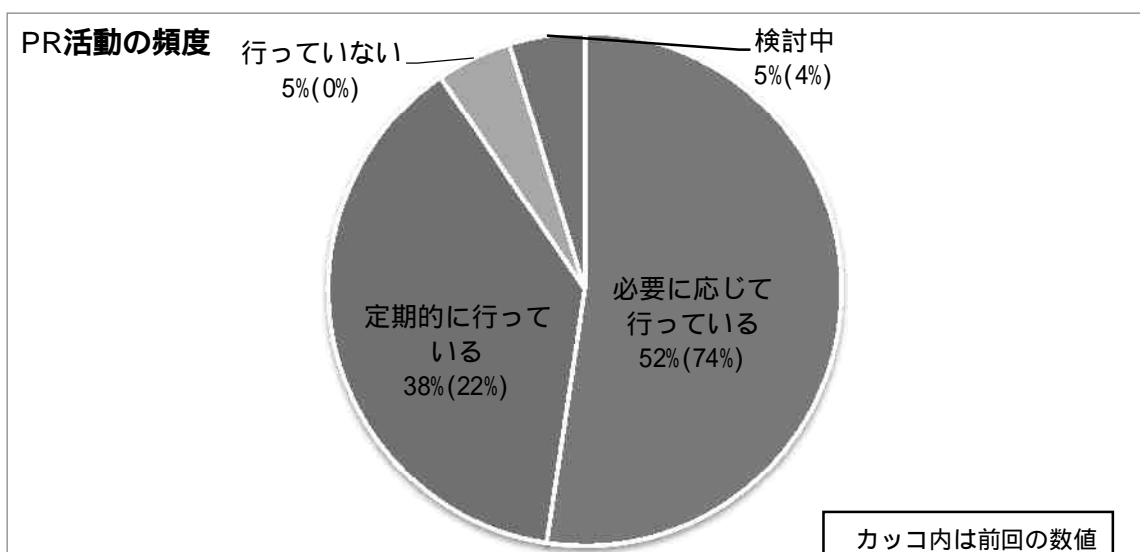
成果発表会等での会員外の受入れ体制についてたずねたところ、「すべて受け付けている」が76%で、「受け付けているものと、受け付けていないものがある」が24%で、「すべて受け付けていない」が0%でした。

問3-3. 問3-2で「すべて受け付けている」「受け付けているものと、受け付けていないものがある」と答えた方におたずねします。その場合、それは有償でしょうか、無償でしょうか。（1つ選択）(n:21)



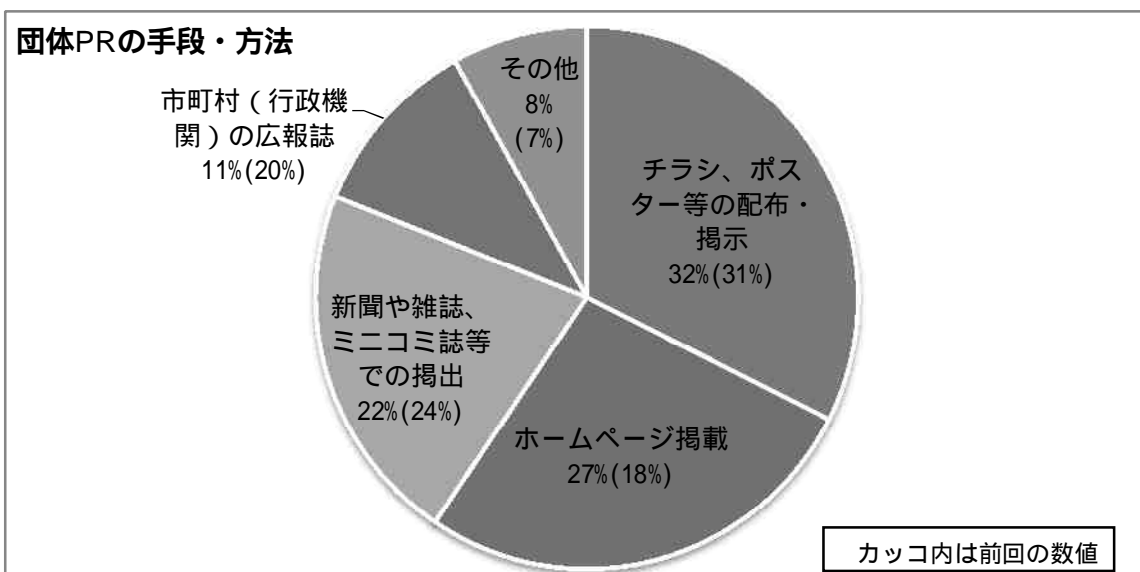
成果発表会等での会員外からの費用負担についてたずねたところ、「有償のもの、無償のものがある」が43%、「すべて有償（参加費徴収など）」が33%、「すべて無償（参加費徴収など）」が24%でした。

問4. 貴団体では、貴団体が行っている事業や活動について、未活動者や未加入者向けのPR活動を行っていますか。(1つ選択)(n:21)



PR活動の頻度についてたずねたところ、「必要に応じて行っている」が52%、「定期的に行っている」が38%、「検討中である」「行っていない」が5%でした。

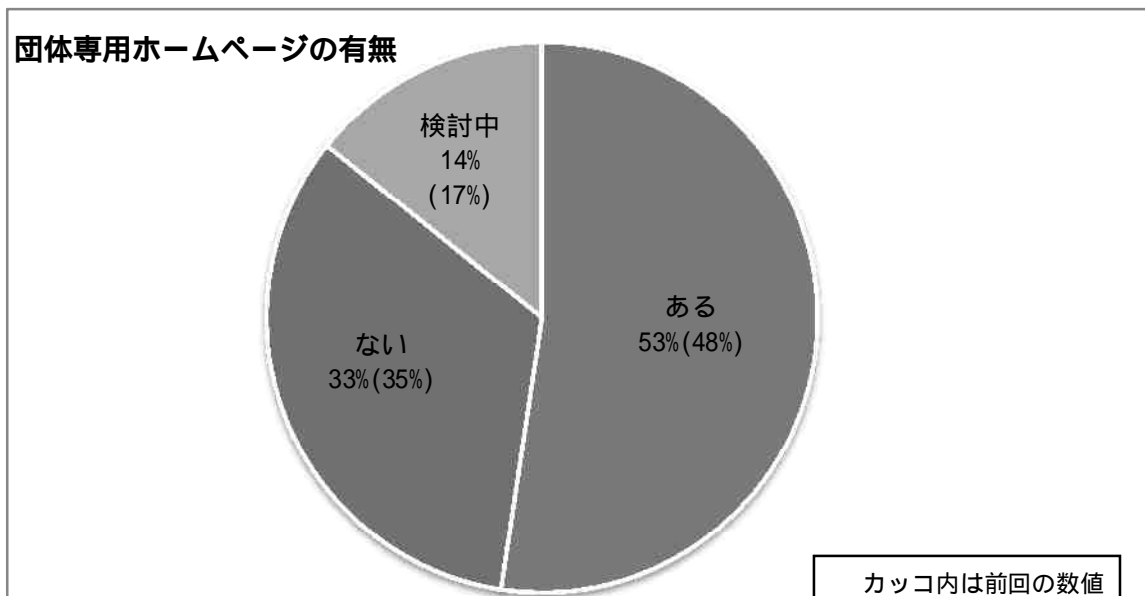
問4-2. 問4で「定期的に行っている」「必要に応じて行っている」と答えた方におたずねします。その場合、それはどのような方法をとっていますか。また、「その他」とした場合は具体例をご記入ください。(いくつでも)(n:37)



団体PRの手段・方法についてたずねたところ、「チラシ、ポスター等の配布・掲示」が32%でもっとも高く、次いで「ホームページ掲載」が27%、「新聞や雑誌、ミニコミ紙等での掲出」が22%、「市町村(行政機関)の広報誌」が11%、「その他」が8%と続きました。なお、「その他」としては、次のような記載がありました。

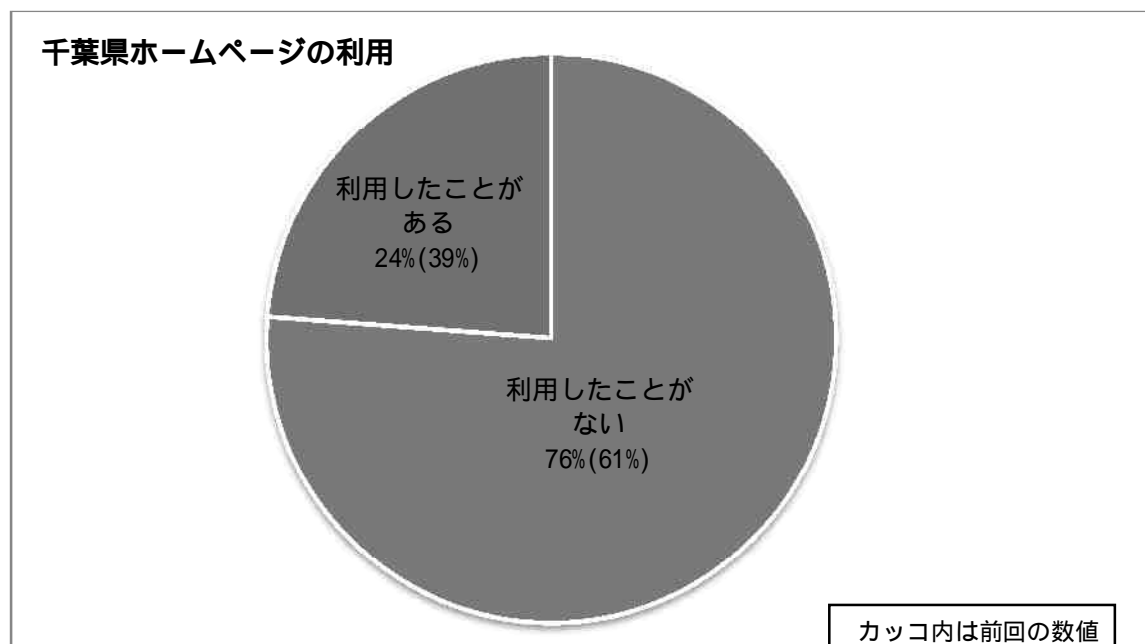
- ・ 該当団体への通知文など
- ・ 会員によるPR
- ・ 会報年3回

問5. 貴団体では、貴団体が公開する専用のホームページをお持ちですか。(1つ選択)(n:21)



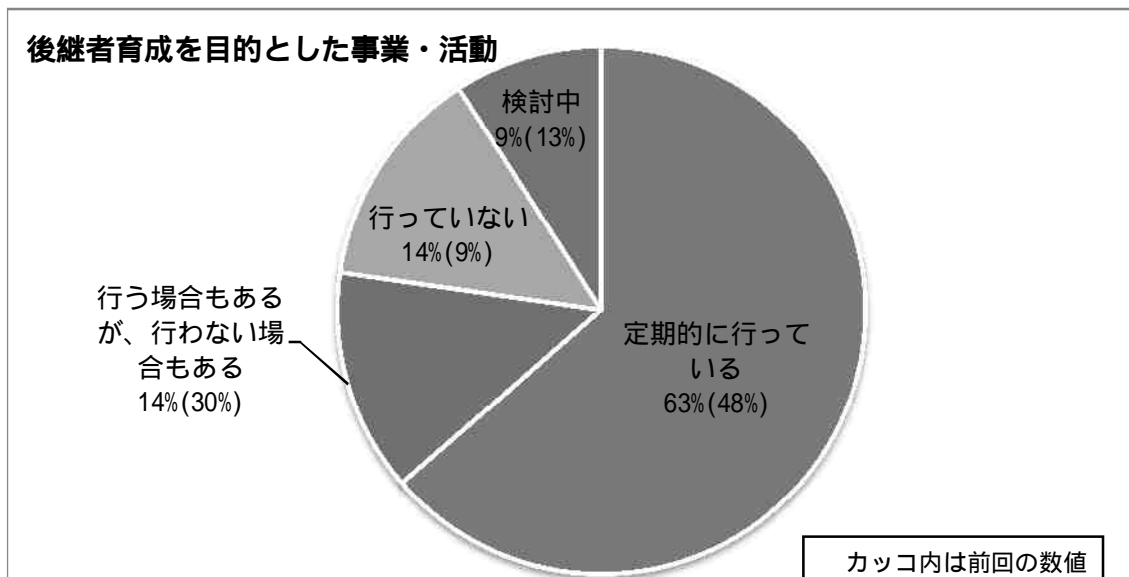
団体専用ホームページの有無についてたずねたところ、「ある」が 53%、「ない」が 33%、「検討中」が 14%でした。

問6. 県のホームページ「ちば文化交流ボックス」では地域のイベント情報を掲載していますが、貴団体では、利用したことがありますか。(1つ選択)(n:21)



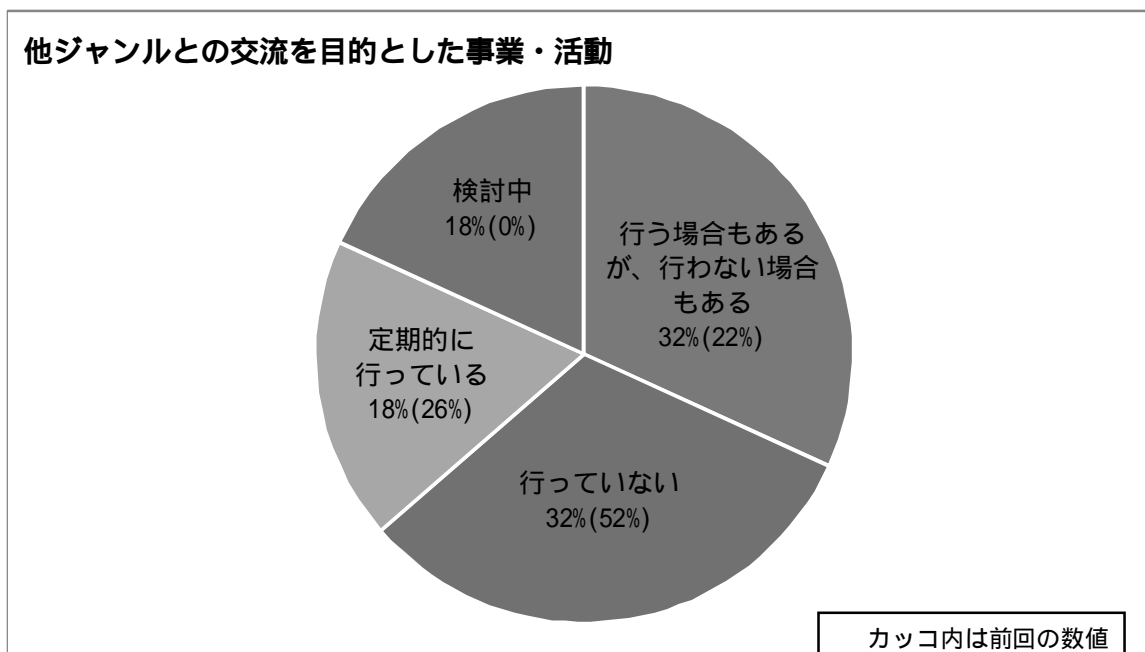
千葉県ホームページの利用についてたずねたところ、「利用したことがない」が 76%、「利用したことがある」が 24%でした。

問7. 貴団体では、団体として後継者育成のための事業や活動を行っていますか。(1つ選択)(n:22)



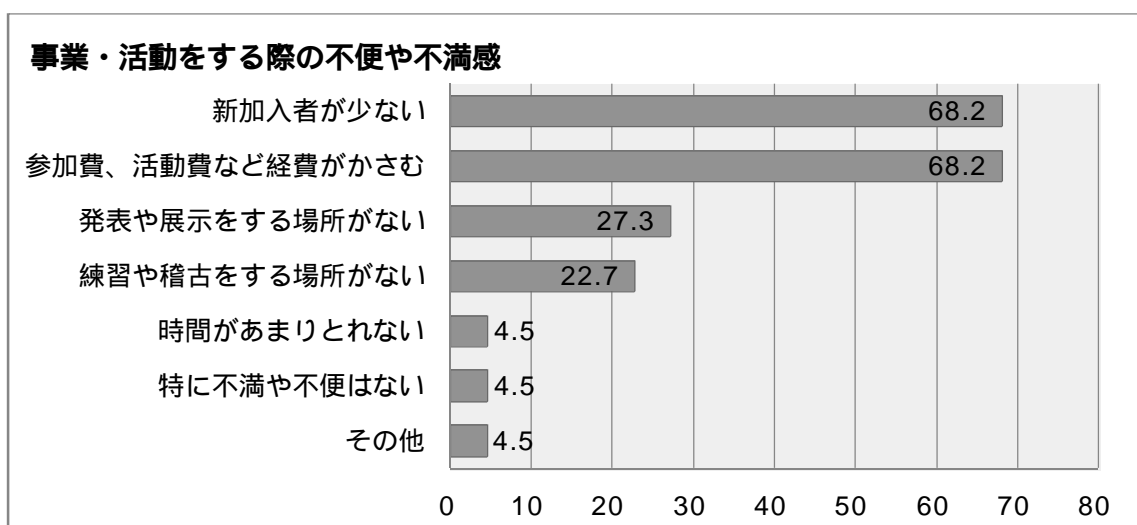
後継者育成を目的とした事業・活動についてたずねたところ、「定期的に行っている」が63%、「その都度行う場合もあるが、行わない場合もある」「行っていない」が14%、「検討中」が9%でした。

問8. 貴団体では、他ジャンルの芸術文化団体との交流(コラボレーションを含む)を目的とした事業や活動を行っていますか。(1つ選択)(n:22)



他ジャンルとの交流を目的とした事業・活動についてたずねたところ、「行う場合もあるが、行わない場合もある」「行っていない」がともに32%、「定期的に行っている」「検討中」が18%でした。

問9. 貴団体では、団体として事業や活動を行う際に不満や不便を感じたことがありますか。また、「その他」とした場合は具体例をご記入ください。(3つ以内選択)(n:44)



事業・活動をする際の不便や不満感についてたずねたところ、「新規加入者が少ない」「参加費や活動費など、経費がかさむ」が68.2%でもっとも高く、次いで「発表や展示をする場所がない」が27.3%、「練習や稽古をする場所がない」が22.7%と続き、「時間があまりとれない」「特に不満や不便はない」「その他」が4.5%でした。

問10. 貴団体では、今後の団体のあり方として、課題としていることや悩みごとがありますか。(自由記載)(n:20)

団体としての課題や悩みごとについてたずねたところ、おもなものとして次のような記載がありました。

<後継者>

- ・会員の高齢化。
- ・新規加入者が少ないこと。担い手の固定化が課題。
- ・日本の伝統芸術文化の後継者育成事業を実施するには、費用の負担が大きく、活動がむずかしいこと。

<文化施設>

- ・定期的公演を行うための会場の確保。
- ・会館の使用代金が高いこと。

<事業>

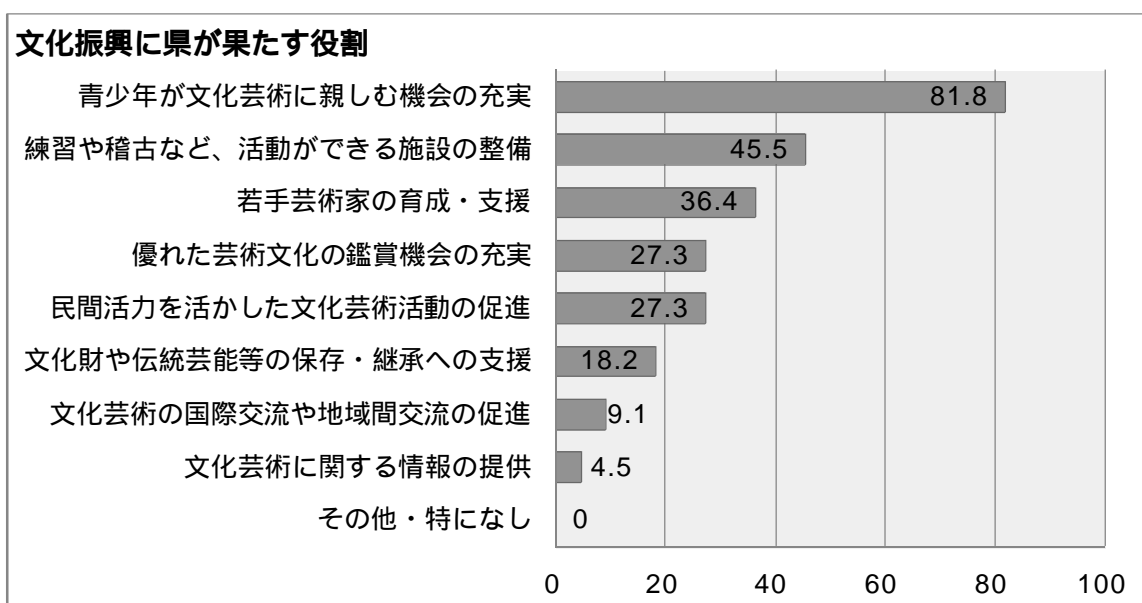
- ・会員の高齢化に伴い、各行事への参加人数が減少気味である。
- ・会員の高齢化による活動の制約。

<運営>

- ・補助金削減による活動の制約。
- ・平日、仕事を休んで動ける人が限られてしまうので、苦勞する。



問 11 . 千葉県文化芸術を振興するために、県が果たす役割はどのようなことだと思いますか。  
また、「その他」とした場合は具体例をご記入ください。(3つ以内選択)(n:55)



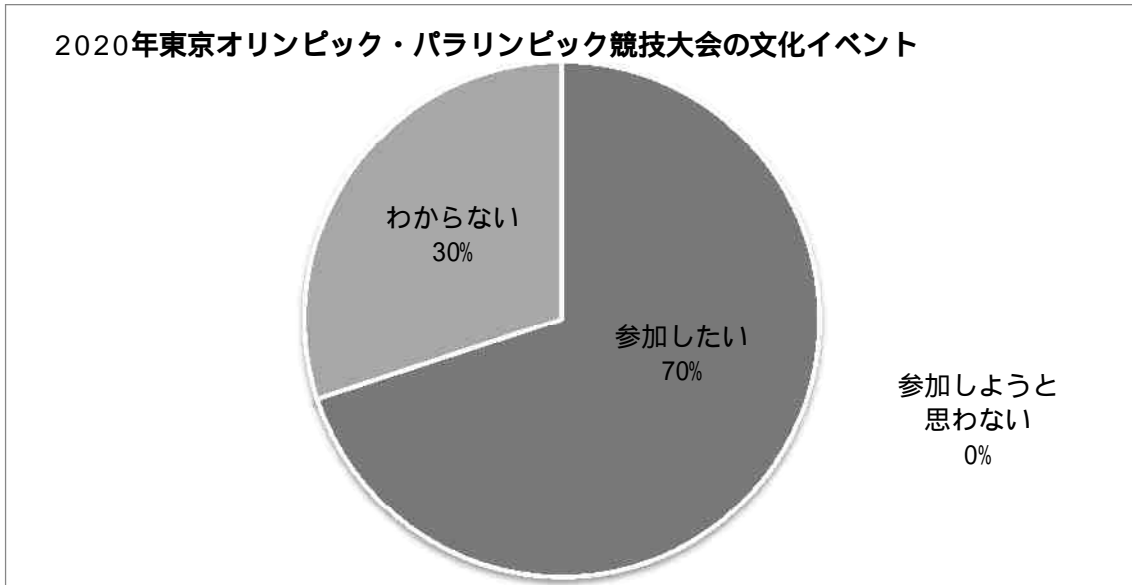
文化振興に県が果たす役割についてたずねたところ、「青少年が文化芸術に親しむ機会の充実」が 81.8%でもっとも高く、次いで「練習や稽古など、文化芸術活動ができる施設の整備」が 45.5%、「若手芸術家の育成・支援」が 36.4%、「優れた芸術文化の鑑賞機会の充実」「民間活力を活かした文化芸術活動の促進」が 27.3%、「文化財や伝統芸能等の保存・継承への支援」が 18.2%、「文化芸術の国際交流や地域間交流の促進」が 9.1%、「文化芸術に関する情報の提供」が 4.5%、「その他」「特になし」は 0%でした。

問 12 . 「ちば文化」(千葉県固有の文化、千葉県らしさ)でイメージするものは、どのようなものですか。  
(自由記載)(n:14)

「ちば文化」のイメージについてたずねたところ、おもなものとして次のような記載がありました。

- ・古い歴史と豊かな国土、住みやすい気候と明るい人間性。
- ・豊かな自然を活かした郷土芸能や生活文化。
- ・海(川)と大地(緑) 漁業と農業、林業。それらの生活の中で生まれ育まれて来た伝統文化、芸能等、そしてそれらを支えてきた材料、技術。
- ・首都圏の一画として、経済・文化の振興、温暖な気候、風土。
- ・一都三県からなる大都市に併合されて、千葉固有の「らしさ」が希薄である。
- ・名産物の食文化。
- ・遺跡、文化財。
- ・少年少女オーケストラ。
- ・特になし。

問 13 . 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として、リオ五輪後から東京大会までの4年間、文化イベントのプログラムを全国津々浦々で行うことが予定されています。貴団体は、文化イベントのプログラムに参加しようと思いますか。(1つ選択)(n:20)



2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の文化イベントについてたずねたところ、「参加したい」が70%、「わからない」が30%、「参加しようと思わない」は0%でした。

## 1. 調査の目的

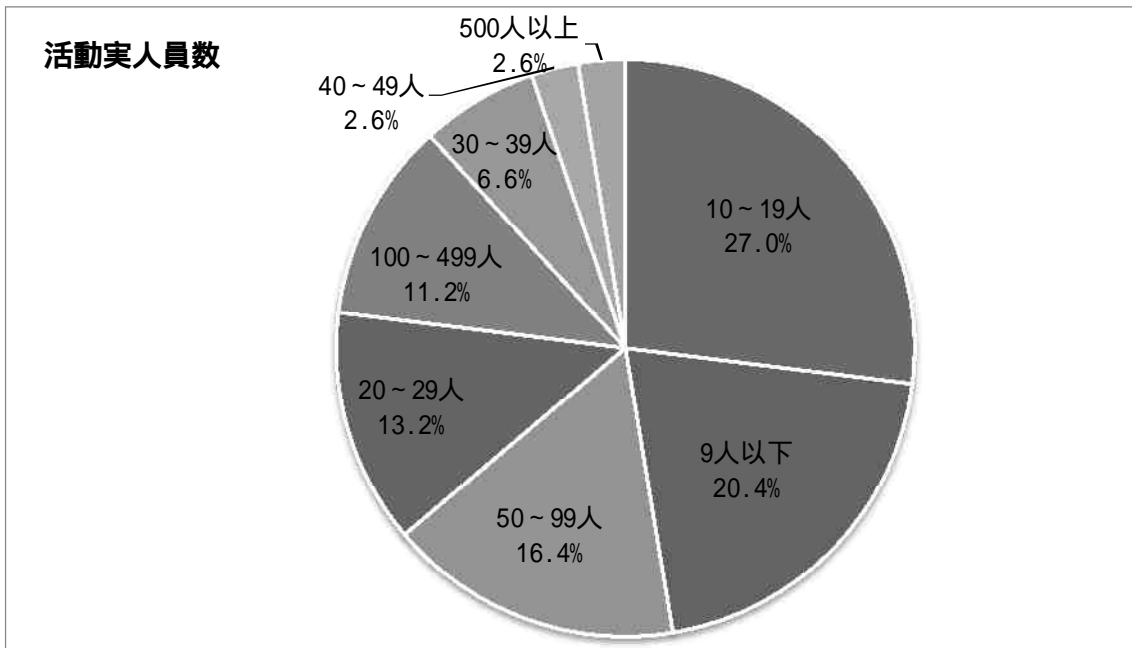
「ちば文化振興計画」(平成 28～32 年度)の基礎資料とするとともに、今後の文化振興施策や事業展開の参考資料とする。

## 2. 調査の実施状況等

- (1) 調査対象 文化芸術活動を行う特定非営利活動法人  
アンケート調査票は「学術、文化、芸術又はスポーツ」を活動分野として  
いる千葉県又は千葉市所管の 685 法人へ配布
- (2) 調査時期 平成 27 年 10 月 1 日～10 月 21 日
- (3) 調査方法 アンケート調査票の配布・記入・回収及びホームページアンケートフォームでの回答
- (4) 回答状況 152 団体が回答 (回答率 22.2%)
- (5) 調査項目
  - 問 1. 活動実人員数について
  - 問 1-2. 活動実人員の平均年齢について
  - 問 2. 主な文化芸術活動について
  - 問 2-2. 事業の対象者について
  - 問 3. 成果発表会等の実施頻度について
  - 問 3-2. 成果発表会等での会員外の受入れ体制について
  - 問 3-3. 成果発表会等での会員外からの費用負担について
  - 問 4. PR 活動の頻度について
  - 問 4-2. PR の手段・方法について
  - 問 5. ホームページの有無について
  - 問 6. 千葉県ホームページの利用について
  - 問 7. 今後のあり方としての課題について
  - 問 8. 「ちば文化」のイメージについて
  - 問 9. 文化振興に県が果たす役割について
  - 問 10. 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の文化イベントについて
  - 問 11. 国及び県に期待することについて

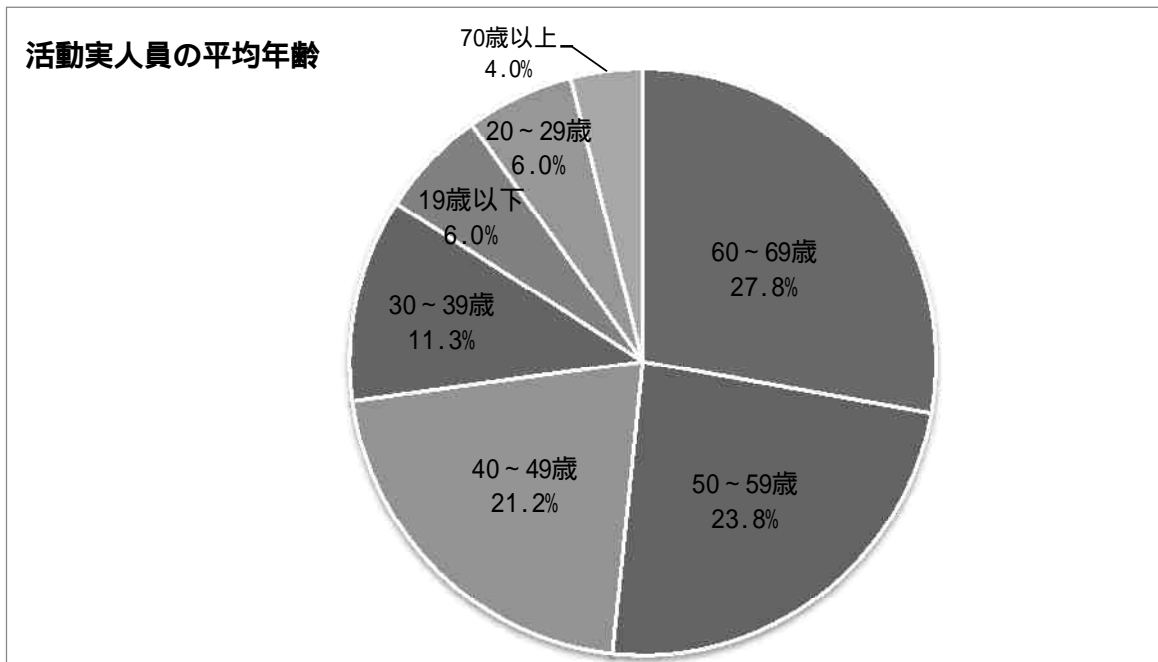
### 3. 調査結果

問1. 現在の活動実人員の人数について、お答えください。(n:152)



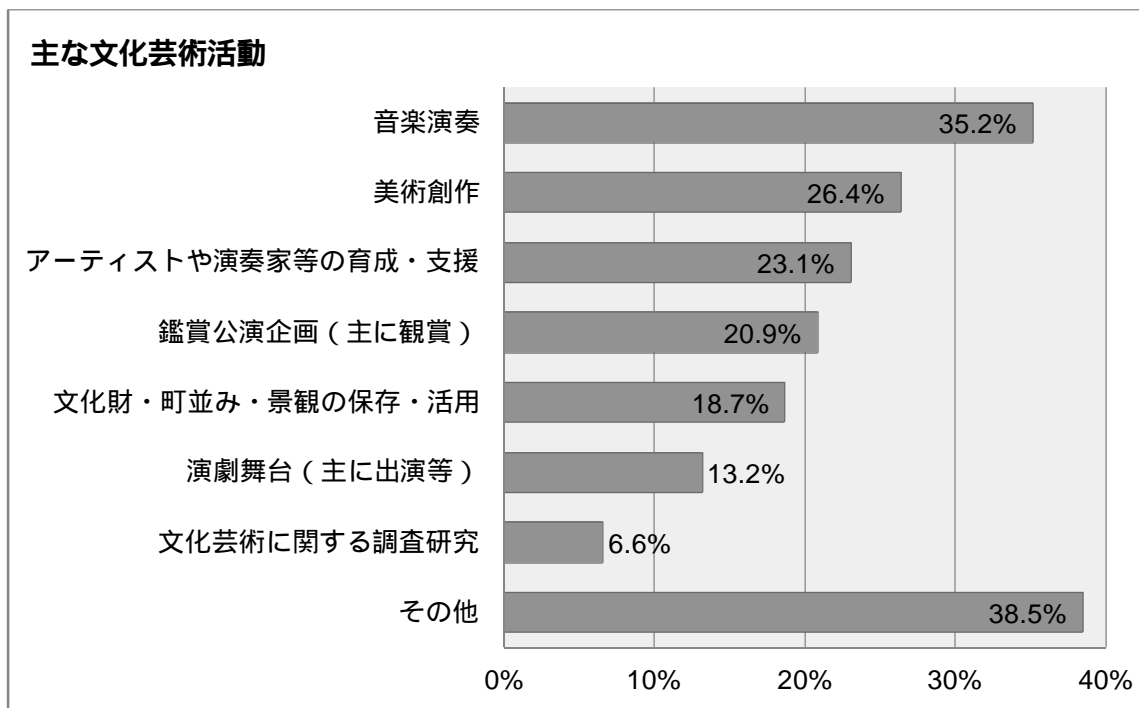
法人の活動実人員数についてたずねたところ、最も多いのは「10~19人」でした。

問1-2. 活動実人員の平均年齢について、お答えください。(1つ選択)(n:151)



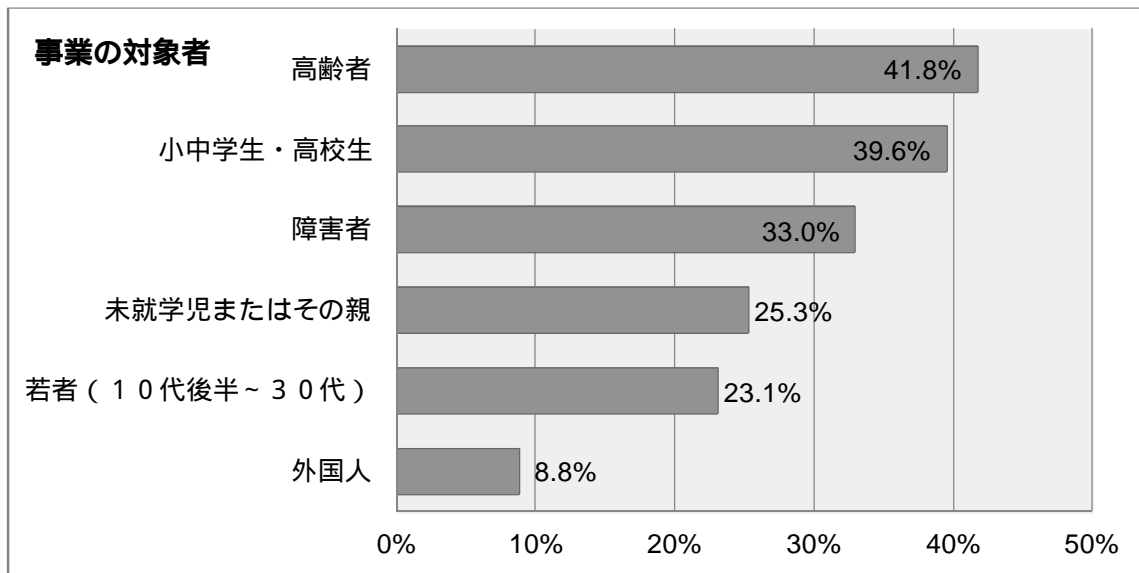
会員の平均年齢についてたずねたところ、「60~69歳」が27.8%でもっとも高く、次いで「50~59歳」が23.8%、「40~49歳」が21.2%でした。

問2. 主に行っている文化芸術活動に関する事業について、お答えください。(複数回答可)(n:91)



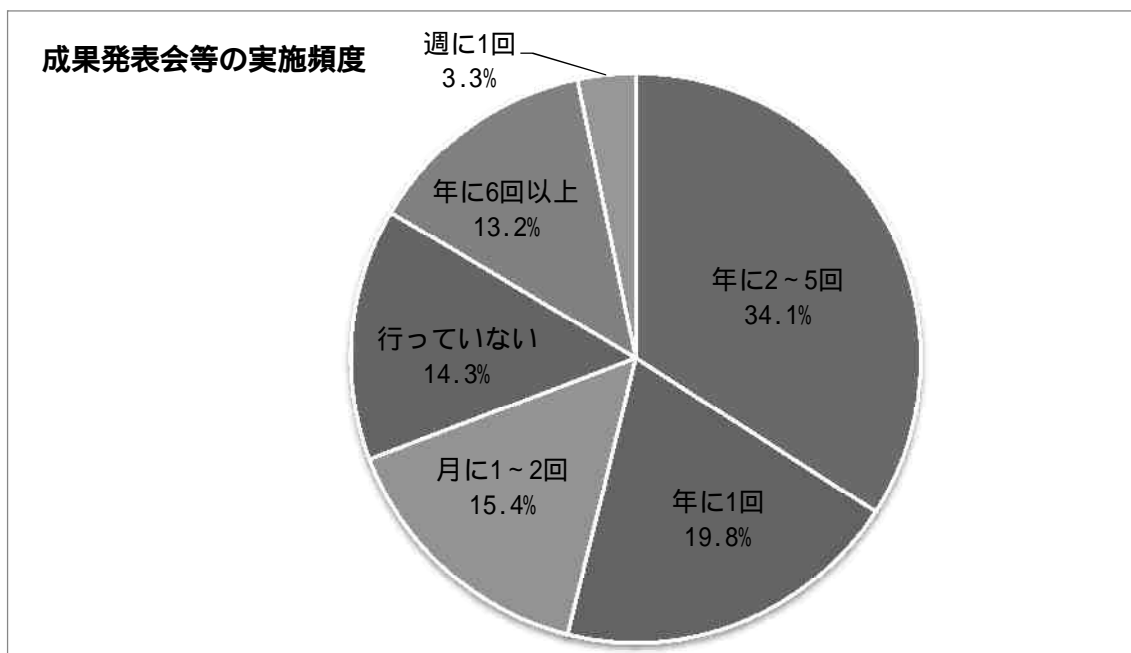
主に行っている文化芸術活動についてたずねたところ、「音楽演奏」が35.2%と最も多く、次いで「美術創作」が26.4%、「アーティストや演奏家等の育成・支援」が23.1%でした。また、「その他」としては、「茶道・華道」「囲碁・将棋」「芸術活動の側面支援」などがありました。

問2-2. 問2で行っている活動の中で、特定の対象者向けの事業を行っていますか。(複数回答可)(n:91)



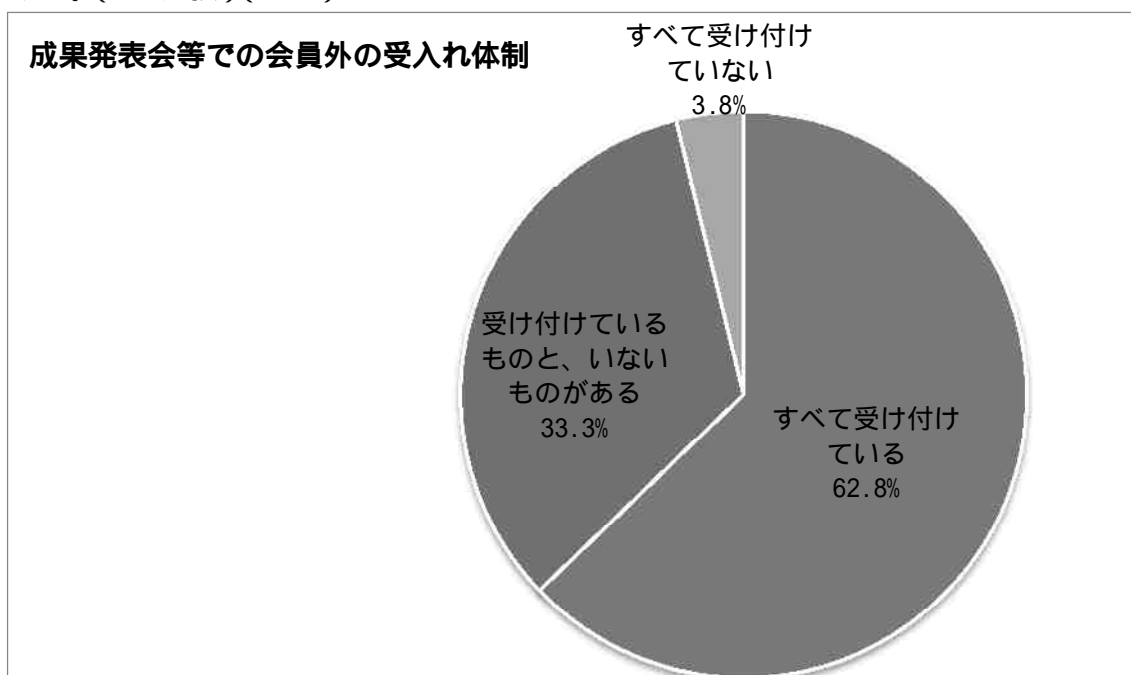
事業の対象者についてたずねたところ、「高齢者」が41.8%と最も多く、次いで「小中学生・高校生」が39.6%、「障害者」が33.0%でした。

問3. 文化芸術活動の成果の発表会や展示会等をどのくらい行っていますか。(1つ選択)(n:91)



成果発表会等の実施頻度についてたずねたところ、「年に2~5回」が34.1%でもっとも高く、次いで「年に1回」が19.8%、「月に1~2回」が15.4%で、「行っていない」ところが14.3%でした。

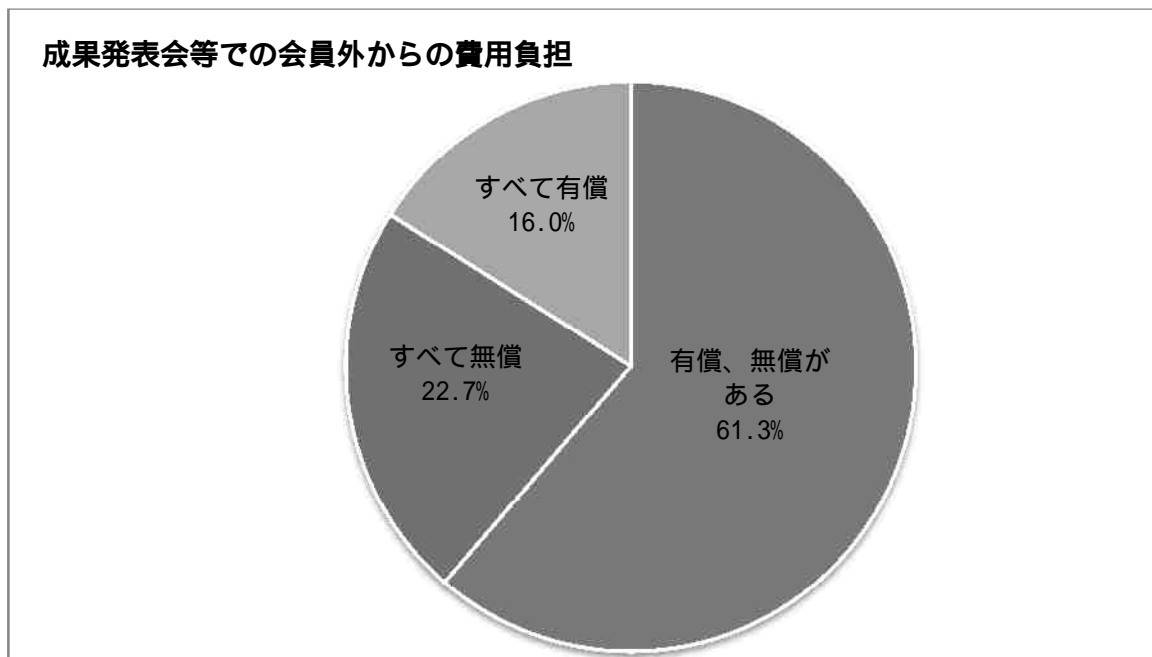
問3-2. 問3で行っているとした場合、それは一般の方(会員以外)の参加(観覧、聴講)も受け付けていますか。(1つ選択)(n:78)



成果発表会等での会員外の受入れ体制についてたずねたところ、「すべて受け付けている」が62.8%で、「受け付けているものと、受け付けていないものがある」が33.3%で、9割以上が会員外の受入れを行っていました。

問3-3. 問3-2で「すべて受け付けている」「受け付けているものと、受け付けていないものがある」と答えた方におたずねします。その場合、それは有償でしょうか、無償でしょうか。

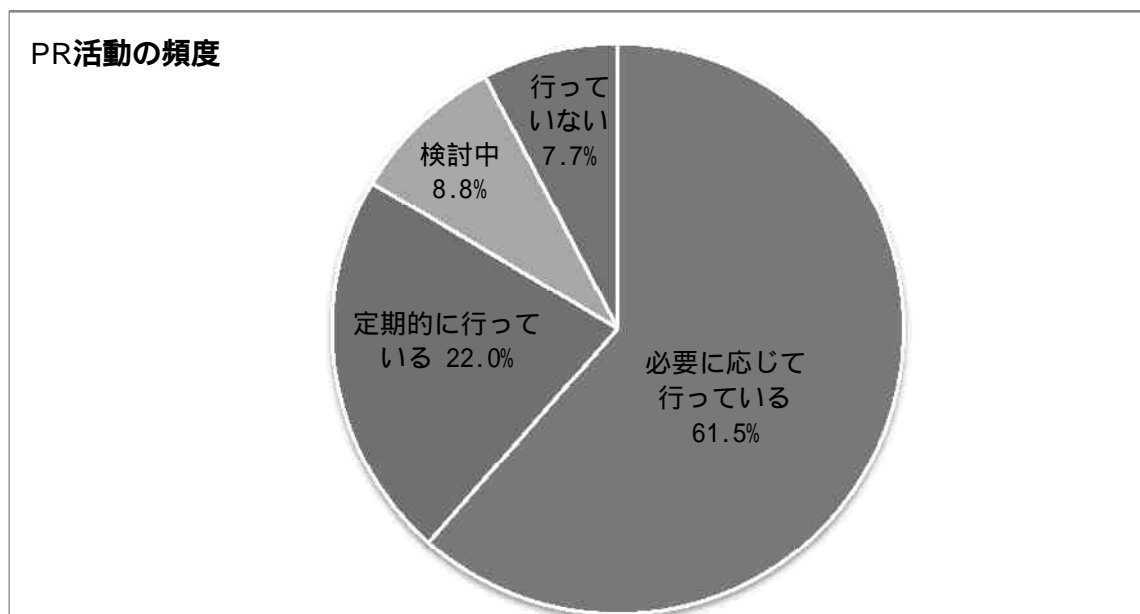
(1つ選択)(n:75)



成果発表会等での会員外からの費用負担についてたずねたところ、「有償のもの、無償のものがある」が61.3%、「すべて有償(参加費徴収など)」が16.0%、「すべて無償(参加費徴収など)」が22.7%でした。

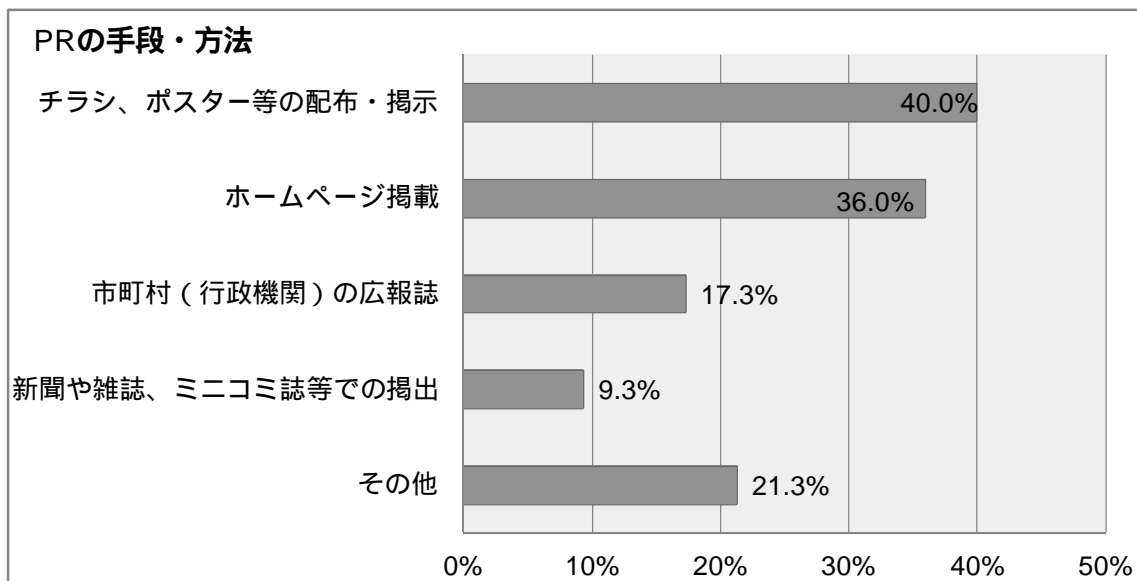
問4. 事業や活動について、新規会員獲得につなげるようなPR活動を行っていますか。

(1つ選択)(n:91)



PR活動の頻度についてたずねたところ、「必要に応じて行っている」が61.5%、「定期的に行っている」が22.0%で、8割以上がPR活動を行っていました。

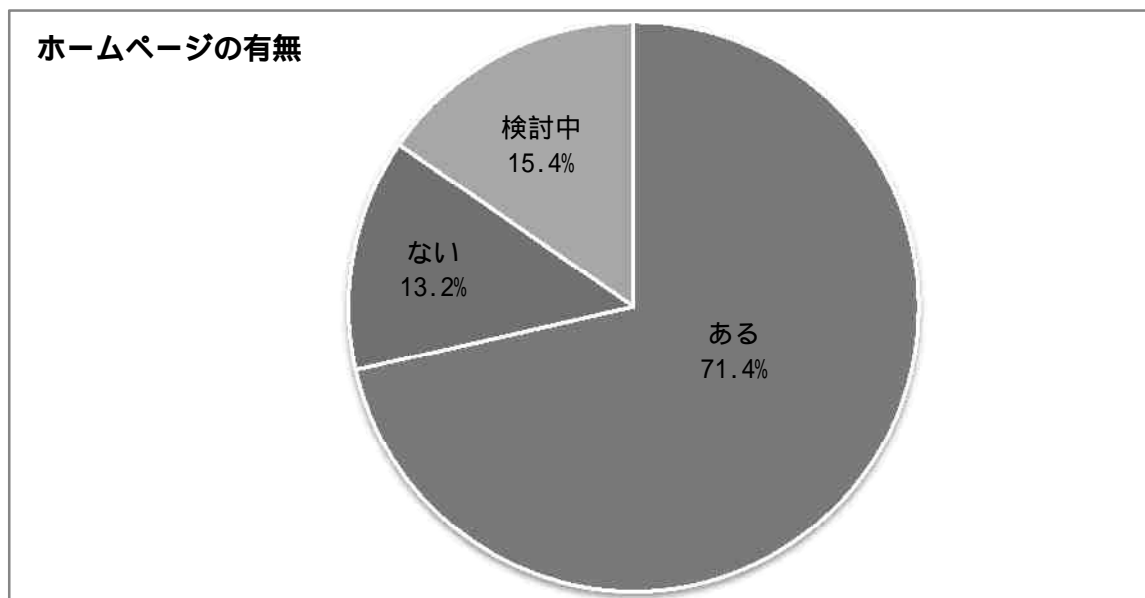
問4-2. 問4で「定期的に行っている」「必要に応じて行っている」と答えた方におたずねします。その場合、それはどのような方法をとっていますか。また、「その他」とした場合は具体例をご記入ください。(いくつでも)(n:75)



PRの手段・方法についてたずねたところ、「チラシ、ポスター等の配布・掲示」が40.0%で最も高く、次いで「ホームページ掲載」が36.0%でした。

また、「その他」としては、「口コミ」「SNSの活用」「行事開催時でのPR」などがありました。

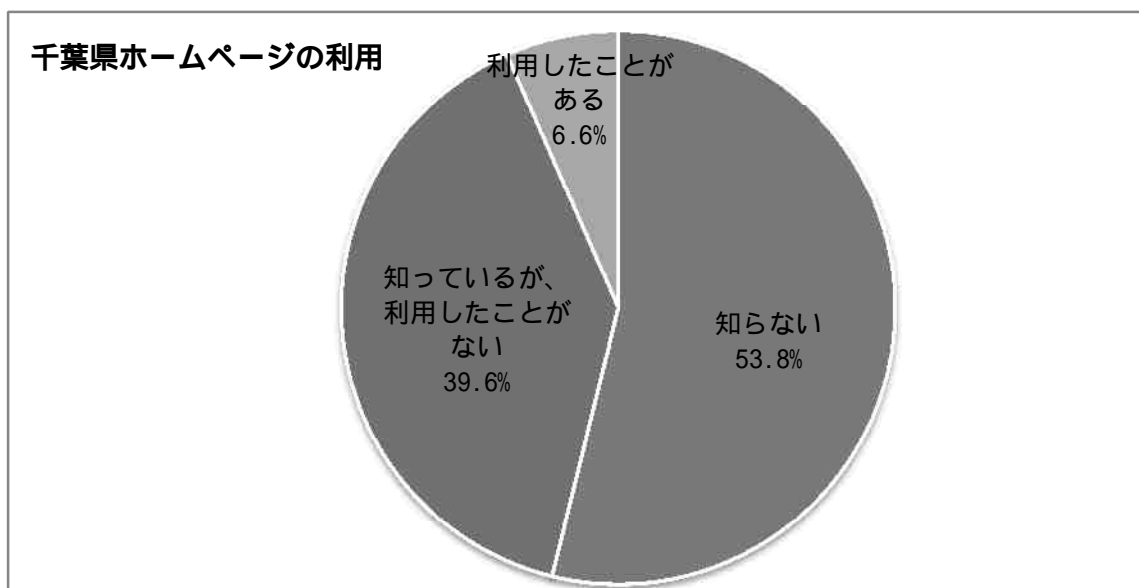
問5. 法人の専用のホームページをお持ちですか。(1つ選択)(n:91)



ホームページの有無についてたずねたところ、「ある」が71.4%、「ない」が13.2%、「検討中である」が15.4%でした。

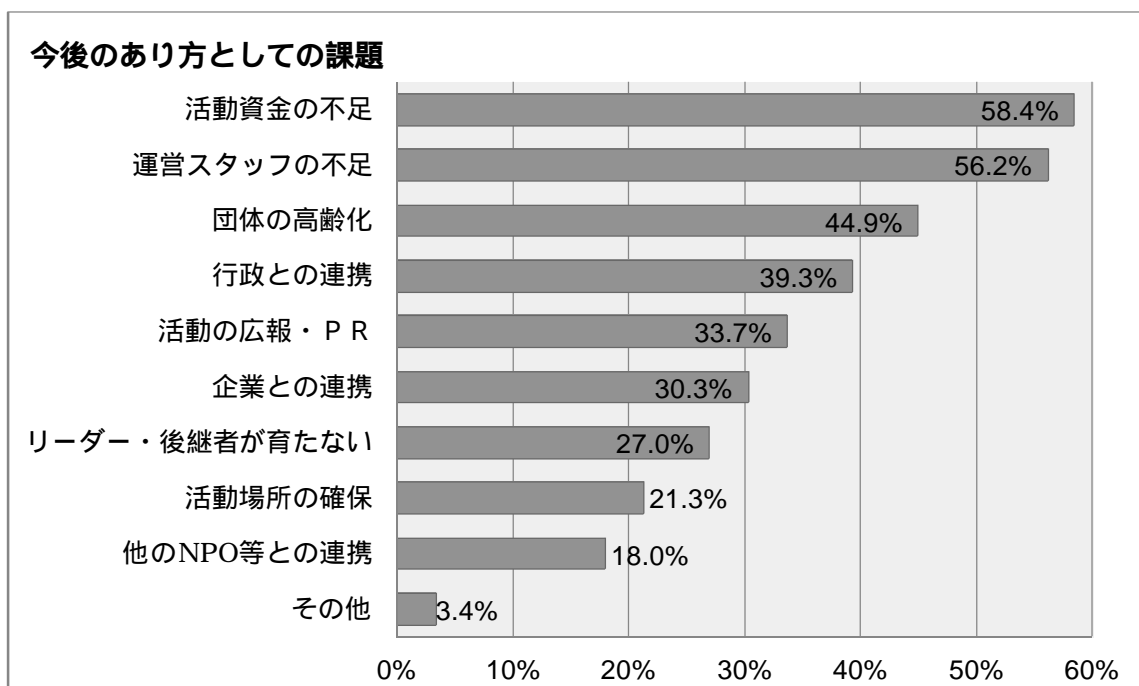


問6. 県のホームページ「ちば文化交流ボックス」では地域のイベント情報を掲載していますが、御存知ですか、また利用したことがありますか。(1つ選択)(n:91)



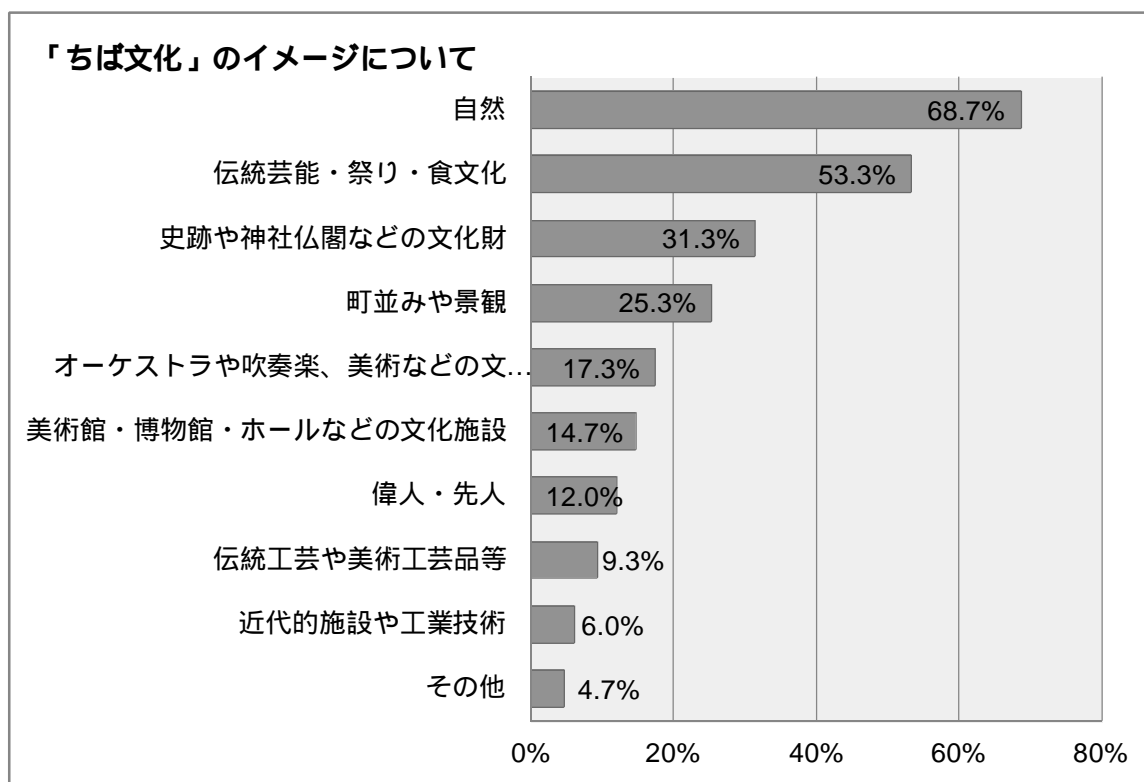
県庁ホームページ「ちば文化交流ボックス」についてたずねたところ、「知らない」が53.8%、「利用したことがある」が6.6%でした。

問7. 今後の法人のあり方として、課題としていることはありますか。(1つ選択)(n:89)



今後の法人のあり方としての課題についてたずねたところ、「活動資金の不足」が58.4%、「運営スタッフの不足」が56.2%、「団体の高齢化」が44.9%でした。

問8.「ちば文化」(千葉県固有の文化、千葉県らしさ)でイメージするものは、どのようなものですか。  
(複数回答可)(n:150)

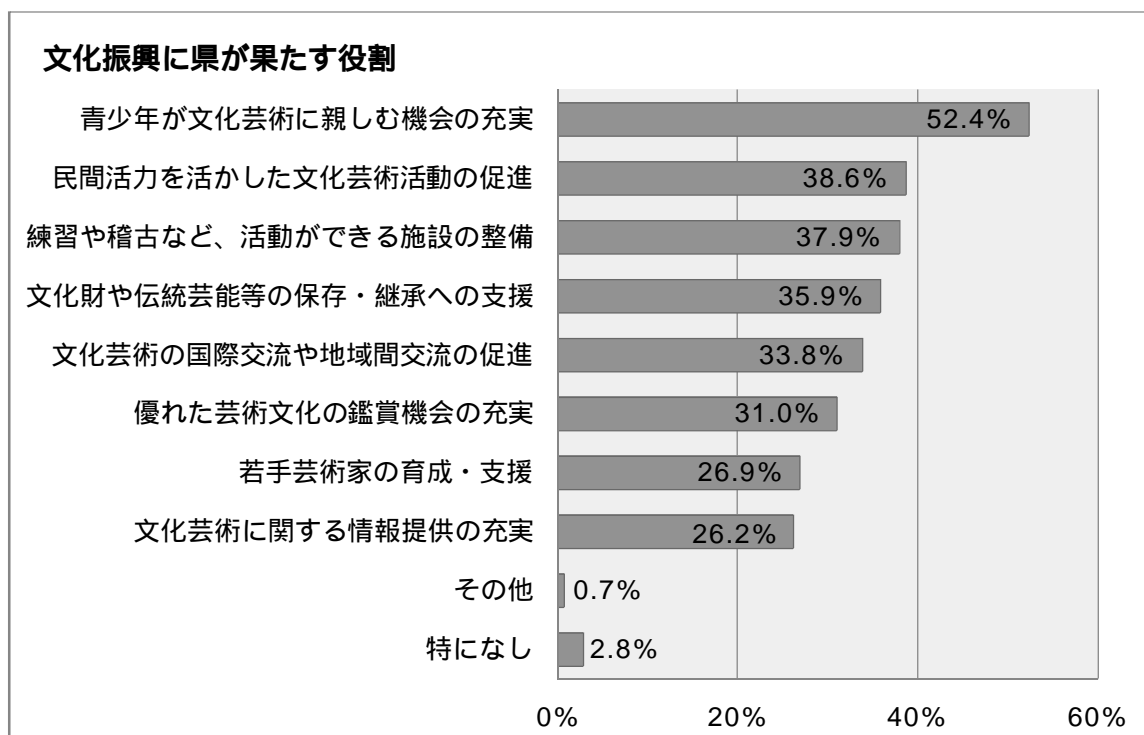


「ちば文化」でイメージするものについてたずねたところ、「自然」が68.7%で最も多く、次いで「伝統芸能・祭り・食文化」が53.3%、「史跡や神社仏閣などの文化財」が31.3%、「町並みや景観」が25.3%でした。

また、「その他」として、「温暖な土地柄」「全国的全世界的に活躍している人材」などがありました。なお、具体的な内容として、次のような記載がありました。

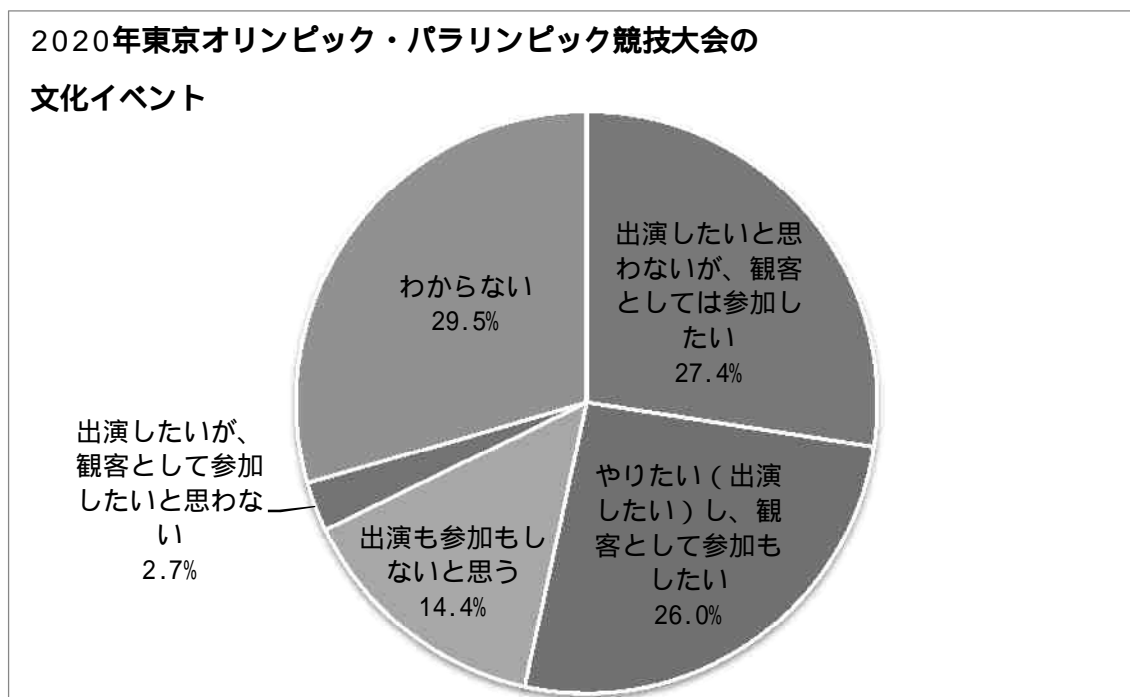
- ・三方を海に囲まれ自然が豊かなこと。山と海の自然の共存。都心に近い田舎。変化に富んだ自然など。
- ・山のものも海のものもある、食文化がすばらしい。
- ・屏風ヶ浦と銚子の漁業(食べ物)。
- ・里山、谷津田の景観。利根運河の歴史・景観。
- ・成田空港を中心とした諸文化(新勝寺美術館など)。
- ・香取神宮。
- ・御成街道、御茶屋御殿、太巻き寿司。
- ・鋸山、鹿野山、犬吠崎。
- ・ディズニーリゾート、幕張メッセ、アンデルセン公園、房総のむら、
- ・小・中・高の吹奏楽部、柏を中心としたストリートミュージシャンなど、音楽のイメージ。
- ・ニューフィル千葉や少年少女オーケストラなどの文化芸術。
- ・文化はあまり感じない。
- ・インパクトのあるものが無いのが千葉らしさかなと思う。
- ・古さと新しさの融合。

問 9 . 千葉県の文化芸術を振興するために、県が果たす役割はどのようなことだと思いますか。また、「その他」とした場合は具体例をご記入ください。(複数回答可)(n:145)



文化振興に県が果たす役割についてたずねたところ、「青少年が文化芸術に親しむ機会の充実」が52.4%でもっとも高く、次いで「民間活力を活かした文化芸術の促進」が38.6%、「練習や稽古など、活動ができる施設の整備」が37.9%、「文化財や伝統芸能等の保存・継承への支援」が35.9%でした。

問 10 . 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として、リオ五輪後から東京大会までの4年間、文化イベントのプログラムを全国津々浦々で行うことが予定されています。法人として、文化イベントのプログラムをやりたい(出演したい)、または観客として参加しようと思いませんか。(1つ選択)(n:146)



2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の文化イベントについてたずねたところ、「やりたい(出演したい)し、観客として参加もしたい」が26.0%、「出演したいが、観客として参加したいと思わない」が2.7%、「出演したいと思わないが、観客としては参加したい」が27.4%で、文化プログラムに何らかの形で出演・参加したいと考えている法人が半数以上でした。

また、具体的な文化イベントとしては、次のような記載がありました。

- ・ 日本文化のおもてなし、日本舞踊でおもてなしイベント
- ・ 囲碁大会
- ・ 舞台公演・展覧会
- ・ 展覧会(障がい者アート)
- ・ ハワイアンイベント
- ・ 世代間の交流を実現するイベント
- ・ 歴史的な建物や街中でのイベント
- ・ その地域ならではの自然の紹介等
- ・ 演奏や展示等
- ・ 被災地支援

問 11 . 国及び県に期待することがあれば、記入してください。(自由記載)(n:20)

国及び県に期待することについてたずねたところ、次のような記載がありました。

- ・ 予算の大幅増額を含む本格的な取り組み
- ・ 文化芸術活動の実践に向けた相談や支援体制の充実
- ・ 優れた公演会、展示会などの鑑賞機会の充実

- ・公演場所等の無料提供や若い芸術家の支援が必要と考える
- ・千葉県は他県に比べて芸術文化活動の機会や場が少ないので考えてほしい
- ・文化施設の整備をすすめてほしい（エレベーターの設置など高齢化対策 等）
- ・障害者に広く社会活動参加の門戸を開いてほしい
- ・ユニバーサルな視点を取り入れ、障害のある方などがインクルードされるような芸術・文化活動のし  
かけを作ってほしい
- ・歴史的建物の保存や改修は自己資金では限界があるのでぜひ教えてください
- ・国、県、市、商工会議所、商店会、市民活動など別々に活動している活動を統括して一つの大きなム  
ーブメントとして集約してほしい
- ・日本の文化をもっともっと大事にしてほしい
- ・無事に東京オリンピックを開催できるよう力をあわせてほしい

## 6 県内市町村の文化振興条例・計画等の状況

県内市町村での文化振興条例・計画等の策定状況は次のとおりであり、それぞれの地域の個性、特色を生かした文化行政が進められています。（平成27年4月1日時点）

### (1) 文化振興のための条例の制定状況

市町村名	条例名	制定年月
流山市	流山市文化芸術振興条例	平成26年12月
我孫子市	我孫子市文化芸術振興条例	平成21年6月

### (2) 文化振興のための計画等の策定状況

市町村名	指針等の名称	策定年月	計画期間
千葉市	千葉市文化芸術マスタープラン 千葉市文化芸術振興計画	平成11年3月 平成20年3月	平成12年4月 平成20年4月～28年3月
市川市	市川市文化振興ビジョン	平成15年3月	平成15年3月～38年3月
松戸市	文化芸術振興基本方針	平成26年3月	平成26年4月～33年3月
柏市	第三次柏市芸術文化振興計画	平成23年4月	平成23年4月～27年3月
八千代市	八千代市文化芸術の振興に関する基本方針	平成20年4月	
我孫子市	我孫子市文化芸術振興基本方針	平成22年2月	平成27年2月～32年2月
浦安市	浦安市文化振興ビジョン	平成18年3月	

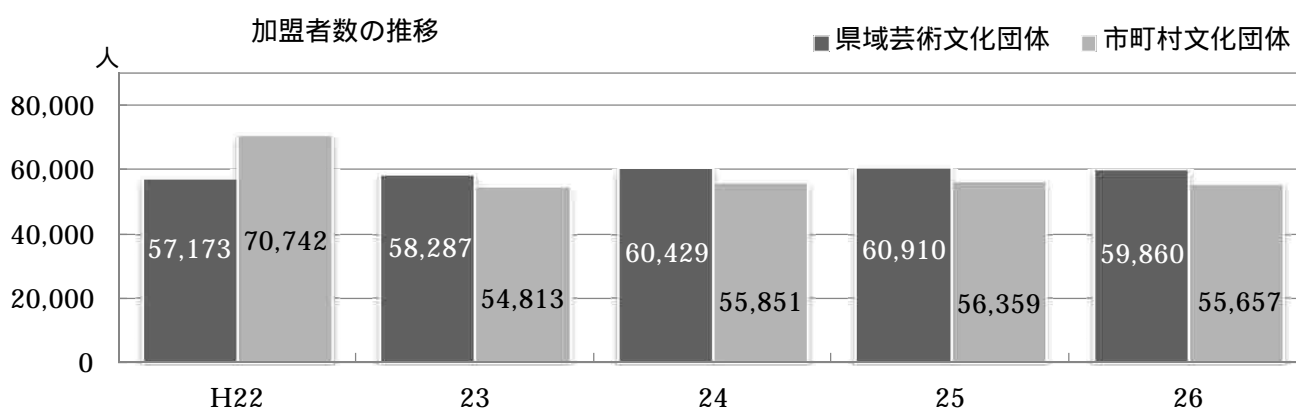
## 7 文化芸術団体と文化振興関連の法人等

### (1) 千葉県芸術文化団体協議会

千葉県芸術文化団体協議会は、昭和 45 年、千葉県下の芸術文化団体相互の理解を深めるとともに、千葉県の芸術文化の振興に寄与することを目的に設立されました。県域芸術文化団体と市町村文化団体の 2 種の団体で構成されています。

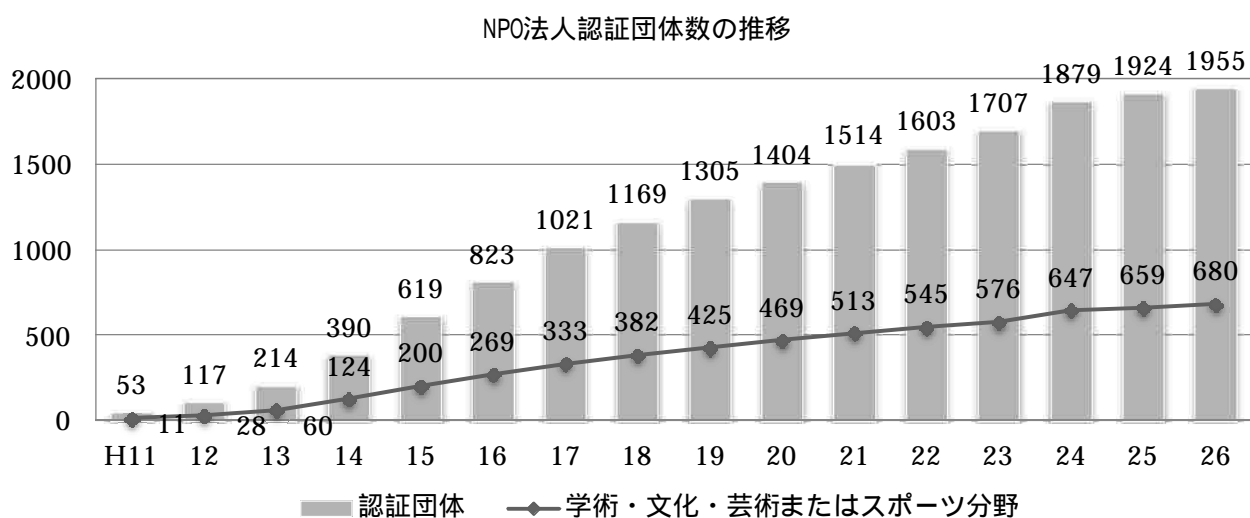
千葉県芸術文化団体協議会（加盟団体数：56 団体）（平成 26 年度）

県域芸術文化団体	22 団体	59,860 人
市町村文化団体	34 団体	55,657 人
計	56 団体	115,517 人



### (2) 特定非営利活動法人（NPO 法人）

特定非営利活動法人（NPO 法人）は、平成 10 年に特定非営利活動促進法が制定されて以来、平成 26 年度末現在で 1,955 団体が認証されており、そのうち活動分野に「学術、文化、芸術又はスポーツ」分野を含む団体は 680 団体で、3 割強の団体が活動分野として「学術、文化、芸術又はスポーツ」分野を掲げています。\* 法律では活動分野を 20 に分類しており、1 団体で複数の活動分野を掲げることができます。



(3) 文化振興関連の公益法人等

県内の文化振興関連の公益法人等は、次の13法人があります。(平成27年4月1日時点)

法人名	設立
公益財団法人 摘水軒記念文化振興財団	昭和30年6月1日
公益財団法人 千葉市文化振興財団	昭和48年2月13日
公益財団法人 八千代市文化・スポーツ振興財団	昭和48年6月28日
公益財団法人 市原市文化振興財団	昭和48年9月20日
公益財団法人 習志野文化ホール	昭和51年4月13日
公益財団法人 市川市文化振興財団	昭和60年3月7日
公益財団法人 ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉	昭和60年4月16日
公益財団法人 松戸市文化振興財団	昭和61年3月26日
公益財団法人 千葉県文化振興財団	昭和61年3月26日
公益財団法人 東金文化・スポーツ振興財団	昭和62年3月27日
公益財団法人 君津市文化振興財団	平成2年3月27日
公益財団法人 土屋文化振興財団	平成4年9月8日
公益財団法人 船橋市文化・スポーツ公社	平成5年7月1日



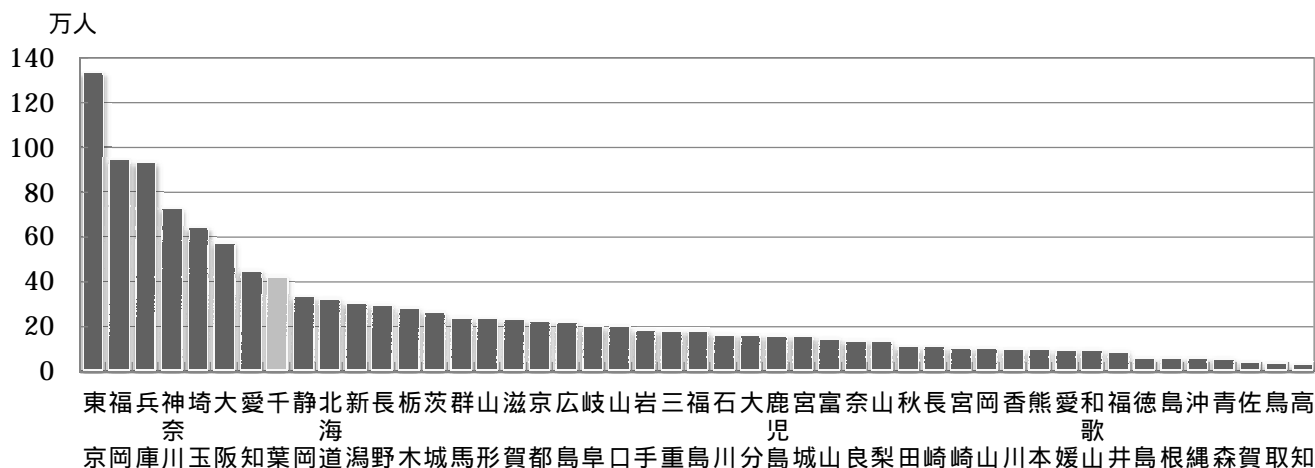
## 8 文化施設の状況

### (1) 文化会館

千葉県内の文化会館の設置数は50館(うち県立は4館)で全国第10位、文化会館ホールにおける事業(舞台芸術・芸術公演事業)の入館者数は420,498人で全国第8位となっています。

\*「文化会館」の設置数は、地方公共団体又は民間が設置する劇場・市民会館・文化センター等で、座席数300席以上のホールを対象としています。

文化会館ホールにおける事業の入館者数(平成22年度)



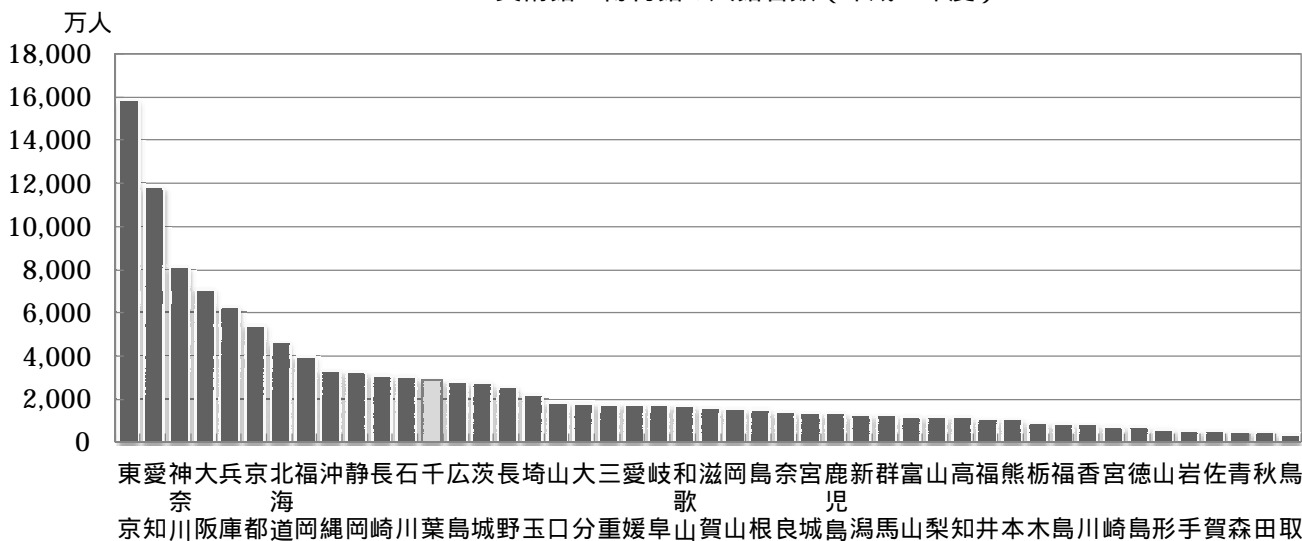
(文部科学省・社会教育調査より)

### (2) 美術館・博物館

美術館・博物館の入館者数

千葉県内の美術館・博物館の設置数は39館(うち県立は6)で全国第9位、入館者数は約288万人で全国第13位です。

美術館・博物館の入館者数(平成22年度)

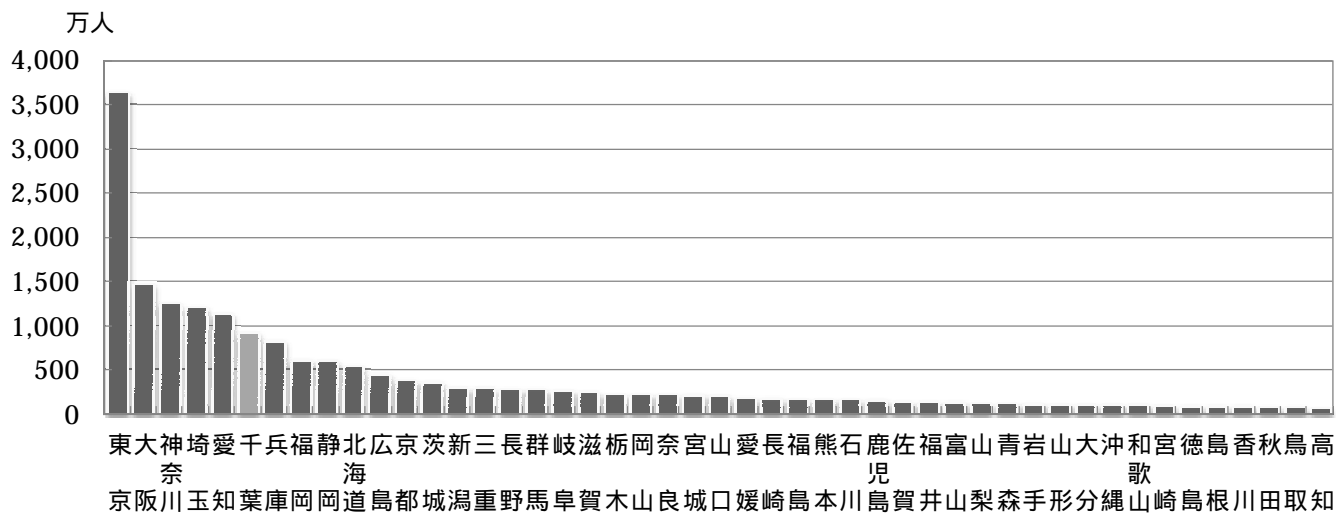


(文部科学省・社会教育調査より)

### (3) 図書館

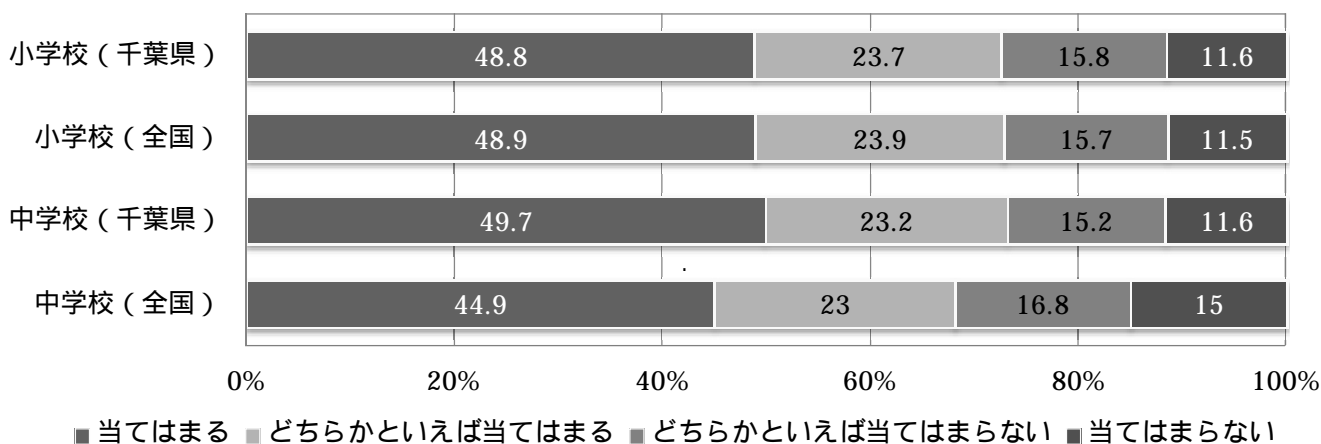
千葉県内の図書館の設置数は140(うち県立は3)で全国第5位、帯出者数は9,200,903人で全国第6位です。また、「読書は好き」と答えた児童生徒の割合は全国平均を上回っています。

図書館の帯出者数(平成22年度)



(文部科学省・社会教育調査より)

読書好きの子どもの割合(千葉県・全国)



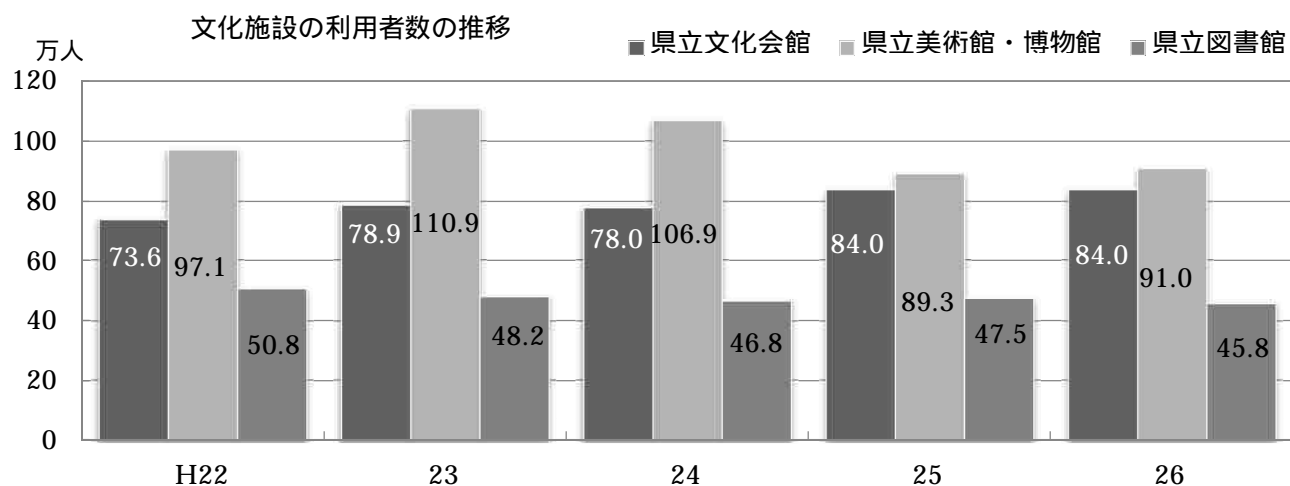
(文部科学省・全国学力学習状況調査より)

文部科学省・社会教育調査：『平成23年度社会教育調査』文部科学省、平成22年4月。

文部科学省・全国学力学習状況調査：『平成27年度全国学力・学習状況調査』文部科学省、平成27年8月。

#### (4) 県立文化施設の利用者入館者数

平成 26 年度の県立文化会館、美術館・博物館、図書館の利用者・入館者は、文化会館 839,938 人、博物館 909,805 人、図書館 458,321 人でした。なお、県立文化会館 4 館及び県立博物館のうち「房総のむら」は、平成 18 年度から指定管理者制度を導入しています。



## 9 国・県指定文化財、ちば遺産 100 選・ちば文化的景観、県指定伝統的工芸品

### (1) 国・県指定文化財

種 別	件 数 等
指定文化財	679 件（国指定 132 件、県指定 547 件）
国宝等	5 件
重要文化財等	127 件
重要伝統的建造物群保存地区	1 地区
選定保存技術	1 件
国登録有形文化財（建造物）	182 件
国登録記念物	2 件
国・県による記録選択	23 件（国選択 18 件、県選択 5 件）

### (2) ちば遺産 100 選・ちば文化的景観

平成 20 年度に県民の投票及び千葉県文化財保護審議会の意見をもとに、県内を 8 つのゾーンに分け、伝統文化、文化遺産、自然遺産合計 100 件を「ちば遺産 100 選」として、また 60 地区を「ちば文化的景観」として、選定しました（別表 - 1・2 参照）。

地 域（ゾーン）	ちば遺産 100 選	ちば文化的景観
干潟の海岸と谷津田景観ゾーン	10 件	5 件
利根川・江戸川と水運のゾーン	13 件	7 件
印旛沼の恵みとニュータウンのゾーン	14 件	9 件
香取の海と水郷、香取神宮・社叢林のゾーン	12 件	4 件
九十九里浜と地曳漁業・水産業のゾーン	14 件	7 件
風光明媚な海山と古寺、城ゾーン	11 件	9 件
黒潮と山の恵みのゾーン	12 件	10 件
東京湾を望む上総丘陵のゾーン	14 件	9 件
計	100 件	60 件

### (3) 伝統的工芸品の指定状況

県内の伝統的工芸品を地場産業として育成するため、昭和 59 年度に千葉県伝統的工芸品指定制度を発足させ、これまでに 180 件を指定しています。

工芸品名	件 数	工芸品名	件 数	工芸品名	件 数
木工品	32 件	金工品	22 件	染色品	16 件
竹工品	16 件	和楽器	11 件	団扇	11 件
郷土玩具	10 件	神祇品	8 件	紐・刺繍	7 件
織物	4 件	人形	6 件	和傘	2 件
筆	2 件	その他工芸品	33 件	計	180 件